

2022年1月新聞書評



我が愛する詩人の伝記～写文集～

室生 犀星 著

中央公論新社

北原白秋の柳河、萩原朔太郎の前橋、堀辰雄の軽井沢・追分、津村信夫の戸隠山…。親しき友人たちを詩人が追慕し、ゆかりの地を写真家が訪ね歩く。ありし日の日本の詩情を捉えた写文集。

産経新聞 2022/01/08

2021:12./ 285p
978-4-12-005482-2

¥3,850〔税込〕



作家と酒

平凡社編集部 編

開高健、吉田健一、赤塚不二夫、中上健次、さくらももこ、内田百閒 ほか 著

平凡社

ほろ酔い、泥酔、二日酔い...そして今宵も酒を呑む。開高健、吉田健一、赤塚不二夫、中上健次、さくらももこら、昭和の文豪や現代の人気作家 46 人による、酒にまつわるエッセイ、詩、漫画、写真資料を収録。

産経新聞 2022/01/08

2021:9./ 292p
978-4-582-74713-3

¥2,090〔税込〕



フライングメジャー号世界一周空の旅(講談社の創作絵本)

コマヤスカン 著

講談社

飛行船で世界中の絶景をめぐる旅に出かけよう。インドのタージ・マハル、アメリカ合衆国のダイヤモンドヘッド…。迫力のパノラマと精密な景色をじっくり眺めて、乗組員たちがどこにいるか、探してみよう。

産経新聞 2022/01/09

2021:11./ 32p
978-4-06-525976-4

¥1,650〔税込〕



宮脇俊三の紀行文学を読む

小牟田 哲彦 著

中央公論新社

鉄道紀行の第一人者・宮脇俊三の深い教養に裏打ちされた、「写真のいらない」紀行文学。そこで描かれた鉄道風景を、今はなき鉄道の地図とともに辿る。NHK ラジオ第2「カルチャーラジオ 文学の世界」での連続講座を書籍化。

産経新聞 2022/01/09

2021:10./ 4p,277p
978-4-12-005469-3

¥2,420〔税込〕



- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は2022年2月時点での税込み価格です。



古代中国の24時間～秦漢時代の衣食住から性愛まで～(中公新書 2669)

柿沼 陽平 著
中央公論新社

口臭にうるさく、女性たちはイケメンに熱狂、酒に溺れ、食欲に性を愉しみ…。気鋭の中国史家が文献史料と出土資料をフル活用し、服装・食卓・住居から宴会・性愛・育児まで、古代中国の1日24時間を再現する。

2021:11./ 324p
978-4-12-102669-9

¥1,056〔税込〕



産経新聞 2022/01/09



『北の国から』黒板五郎の言葉

碓井 広義 編
倉本 聰 著
幻冬舎

金なんか望むな。俸せだけを見ろ。そして謙虚に、つつましく生きろ-。生きるべき“座標軸”を示した奇跡のドラマ「北の国から」。黒板五郎が過ごした20年の日々を追体験する、名場面と名セリフを紹介する。

2021:10./ 253p
978-4-344-03850-9

¥1,430〔税込〕



産経新聞 2022/01/09



宮廷のデザイン～近世・近代の御下賜の品々～(コロナ・ブックス 228)

八條 忠基 著
平凡社

食器、文具・調度、服飾…。皇室で受け継がれてきた、雅やかでモダンな意匠。有職故実に精通した著者が、江戸から平成までの御下賜品150点以上の由来や文様を写真とともに紹介した、宮廷の文様入門。

2021:11./ 126p
978-4-582-63527-0

¥2,420〔税込〕



産経新聞 2022/01/09



虎

岩合光昭 著
クレヴィス

インドの森に生きる動物たちと、森の王者である虎をめぐる物語-。1980年代から2020年2月まで、寅年生まれの岩合光昭が、神秘的森で追いつけた絶滅危惧種ベンガルトラ。その生態に迫る写真集。

2021:12./ 119p
978-4-909532-68-8

¥2,530〔税込〕



産経新聞 2022/01/09



現代生活独習ノート

津村 記久子 著
講談社

偶然録画していた興味のない番組、冷蔵庫内の陣地争い、貧弱な食事ばかりのSNS画面…。キラキラしてなくても冴えない日常は、案外愛しく、悪くない。“今”が詰まった8つの物語。『群像』掲載を単行本化。

2021:11./ 259p
978-4-06-526037-1

¥1,815〔税込〕



産経新聞 2022/01/09、朝日新聞 2022/01/15



剛心

木内 昇 著
集英社

天涯孤独の身で 17 歳にして単身渡米。帰国後、西欧の新しい技術に学んだ“江戸の再興”を心に誓い、国会議事堂の建設へと心血を注ぎ…。近代日本の礎を築いた妻木頼黄の生涯を描く。『小説すばる』連載を単行本化。

産経新聞 2022/01/09、読売新聞 2022/01/09

2021:11./ 443p
978-4-08-771759-4

¥2,200〔税込〕



千個の青

チョン・ソンラン 著
早川書房

小児麻痺で車椅子に乗る 17 歳のウネと、ロボット研究者の夢に挫折した 15 歳のヨンジェ。深い諦念を抱える姉妹は、たった千個の単語しか知らないロボットのコリーによる、素直で率直な意見に心を動かされて…。

産経新聞 2022/01/15

2021:10./ 351p
978-4-15-210056-6

¥2,200〔税込〕



ガーファネクストステージ～四騎士+Xの次なる支配戦略～

スコット・ギャロウェイ 著
東洋経済新報社

パンデミックの時代におけるアマゾン、アップル、フェイスブック、グーグルについて考察。さらに、GAFAX の支配を免れているセクターでの大変革のチャンスや、飛躍しそうな企業なども取り上げる。

産経新聞 2022/01/15、日本経済新聞 2022/01/15

2021:12./ 320p, 15p
978-4-492-50335-5

¥1,980〔税込〕



四国辺土～幻の草遍路と路地巡礼～

上原 善広 著
KADOKAWA

草遍路、職業遍路、生涯遍路とも呼ばれる「辺土」。ときに畏敬と畏怖の目で見られ、放浪者として迫害される彼らに密着取材。「日本最後の聖と賤」たるもうひとつの遍路を、5 年かけて描いた紀行ルポ。

産経新聞 2022/01/16

2021:11./ 323p
978-4-04-109074-9

¥1,980〔税込〕



時代小説の戦後史～柴田錬三郎から隆慶一郎まで～(新潮選書)

縄田 一男 著
新潮社

「眠狂四郎」「柳生武芸帳」「魔界転生」…。連載中から読者を虜にしたヒーローは、苛烈な戦争体験から生まれた。ヒーロー誕生秘話と型破りな作家たちの実像を解き明かす。『オール讀物』掲載に大幅加筆修正し単行本化。

産経新聞 2022/01/16

2021:12./ 251p
978-4-10-603859-4

¥1,650〔税込〕





イワナ棲む山里～奥只見物語～(モン・ブックス)

秋月 岩魚／足立 倫行 著
世界文化社

1990年代初頭、秘境・奥只見の銀山平に巨大なダム建設企画が持ち上がった。ダムの一つはイワナやヤマメなど溪流魚の宝庫・北ノ又川をそっくり飲み込んでしまう…。秘境の自然とそこに暮らす人々のルポルタージュ。

産経新聞 2022/01/16

2021.12./ 327p
978-4-418-21222-4

¥1,650〔税込〕



サブカルチャーを消費する～20世紀日本における漫画・アニメの歴史社会学～

貞包 英之 著
玉川大学出版部

消費されることを前提として製作され、流通している漫画やアニメ。年齢的、階層的、ジェンダー的な制約があきらかな年少者向けのサブカルチャーとしての漫画やアニメを通して、日本の「消費社会」の可能性と限界を探り出す。

産経新聞 2022/01/16

2021.12./ 7p,614p
978-4-472-40601-0

¥3,740〔税込〕



小鳥たち～マトゥーテ短篇選～(はじめて出逢う世界のおはなし 1957-1967)

アナ・マリア・マトゥーテ 著
東宣出版

20世紀スペインを代表する女性作家アナ・マリア・マトゥーテ本邦初の短篇集。過ぎ去りしある夏の淡くおさない初恋を綴った「隣の少年」、人生に疲れた寡婦の身に起こる摩訶不思議な出来事「?つき」など全21篇を収録。

産経新聞 2022/01/16

2021.11./ 257p
978-4-88588-103-9

¥2,420〔税込〕



ポリコレの正体～「多様性尊重」「言葉狩り」の先にあるものは～

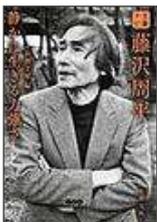
福田ますみ 著
方丈社

「LGBTの権利を認めよ」「ジェンダーは平等だ」…。正義の名のもとに暴走するポリティカル・コレクトネス(ポリコレ)で、社会には「新しい不平等」が生まれている？ポリコレの本当の顔と、その先にある世界を探る。

産経新聞 2022/01/16

2021.12./ 287p
978-4-908925-86-3

¥1,540〔税込〕



文豪ナビ藤沢周平～静かに生きる力強さ。～(新潮文庫 ふ-10-0)

新潮文庫 編
新潮社

時代小説を通して日本人の矜持を描き続けた藤沢周平。人間の繊細な心を深く優しく包み込む国民的作家の素顔に迫る。代表作のジャンル別紹介、くわしい評伝、作品をより楽しむためのコラムや読み物などを収録。

産経新聞 2022/01/22

2022.1./ 252p
978-4-10-124700-7

¥825〔税込〕





たのしみノートのつくりかた

杉浦 さやか 著
祥伝社

お買い物日記、おしゃれノート、子どもスケジュール帳、制作プランノート、引っ越しノート、ダイエットノート...。お絵描き時代から現在まで、杉浦さやかの原点“ノートづくり”のすべてを公開する。コピーして使うラベル付き。

産経新聞 2022/01/22

2021:12./ 150p
978-4-396-61774-5
¥1,650〔税込〕



パラソルでパラシュート

一穂 ミチ 著
講談社

大阪の一流企業の受付で契約社員として働く 29 歳の美雨は、売れない芸人の亨と出会う。?みどころのない亨と仲間の芸人たちとの交流を通して、退屈だった美雨の人生は輝きはじめるが、やがてひとつの嵐が訪れ...

産経新聞 2022/01/23

2021:11./ 335p
978-4-06-526074-6
¥1,760〔税込〕



パラアスリート谷真海 切り拓くチカラ

徳原 海 著
集英社

走幅跳でパラリンピック 3 大会に出場。結婚と出産を経て、トライアスロン選手として再び夢の舞台を目指した背景とは。義足のアスリート、谷真海の東京パラリンピックまでの挑戦を約 2 年半かけて追いかけたドキュメンタリー。

産経新聞 2022/01/23

2021:12./ 127p
978-4-08-790067-5
¥1,760〔税込〕



今日もマンガを読んでいる

宇垣 美里 著
文藝春秋

宇垣美里が選りすぐりの傑作マンガ 54 本を熱量たっぷりに紹介する。「誰かにあてた手紙」という形で書いたエッセイ「拝啓、貴方様」も収録。『週刊文春』ほか連載を加筆し書籍化。

産経新聞 2022/01/23

2021:12./ 262p
978-4-16-391483-1
¥1,650〔税込〕



世界を変える 100 の技術～2030 年を予測～(日経テクノロジー展望 2022)

日経 BP 編
日経 B P 社

カーボンリサイクル、代替燃料、AI 医療、転んだときだけ柔らかくなる床...。日経 BP の専門誌編集長・ラボ所長 50 人が、今後ビジネスに大きなインパクトを与えるテクノロジーを 100 件選び、わかりやすく解説する。

産経新聞 2022/01/23

2021:10./ 318p
978-4-296-00040-1
¥2,640〔税込〕





江戸釣百物語～将軍から庶民まで～

長辻 象平 著
河出書房新社

人々が釣りの面白さに目覚めた江戸時代。旗本夫人も、町の隠居も、将軍も、地方武士も釣りに興じた。古日記の釣果、入門書の道具、浮世絵の風俗等から、水辺に咲いた釣り文化の魅力に迫る。『月刊釣り情報』連載を元に書籍化。

産経新聞 2022/01/23

2021:11./ 205p
978-4-309-03010-4

¥2,002〔税込〕



大日本帝国の海外鉄道 改訂新版

小牟田哲彦 著
育鵬社

戦前の日本は外地と呼ばれる多くの海外領土を有しており、さまざまな目的の旅行者が訪れた。外地の鉄道旅行の実態を文献から読み解き、現代の海外旅行ガイドブック風にまとめる。新掲載の写真や資料を増やすなどした改訂新版。

産経新聞 2022/01/23

2021:12./ 421p 図版
16p

978-4-594-08962-7

¥2,640〔税込〕



家計・企業の金融行動から見た中国経済～「高貯蓄率」と「過剰債務」のメカニズムの解明～

唐 成 著
有斐閣

経済構造転換期にある中国経済が、持続的成長を維持するためには。ミクロとマクロ両面のデータを駆使し、少子高齢化やデジタル化が進行する中国における家計・企業・銀行の変貌を読み解き、中国経済の将来を展望する。

産経新聞 2022/01/23

2021:12./ 15p,211p
978-4-641-16591-5

¥4,400〔税込〕



挑戦～常識のブレーキをはずせ～

藤井 聡太／山中 伸弥 著
講談社

まだ誰も見たことのない景色を見るために。年齢も活躍する分野も大きく異なるノーベル賞受賞研究者と若き天才棋士が、勝負のあり方から若返りの可能性、人工知能の未来、人間の可能性までを語り合う。

産経新聞 2022/01/23、朝日新聞 2022/01/29

2021:12./ 189p
978-4-06-526914-5

¥1,540〔税込〕



裁かれた絵師たち～近世初期京都画壇の裏事情～

五十嵐 公一 著
吉川弘文館

遺産相続、借金返済、詐欺…。江戸時代初期に京都画壇の絵師たちが巻き込まれた裁判を検証し、現在の感覚とは異なる法理念や刑罰の実態に迫る。そのうえで、当時の法が絵師たちの生涯と画業に与えた影響を考察する。

産経新聞 2022/01/29

2021:11./ 8p,265p,3p
978-4-642-08404-8

¥2,640〔税込〕





和歌のタイムライン～年表でよみとく和歌・短歌の歴史～

和歌文学会出版企画委員会 編
三弥井書店

その時、何があったのか-。和歌の歴史について、その始発と思われる時代から昭和 63 年(1988)までを年表にして収録。事実の羅列に見える文字の列に縦横に分け入り、時系列で歌の世界を眺めなおす。

産経新聞 2022/01/29

2021:11./ 155p
978-4-8382-3389-2
¥2,200〔税込〕



バチカン大使日記(小学館新書 413)

中村 芳夫 著
小学館

「日本経済の司令塔」経団連に身を置くこと半世紀。歴代会長に仕えた前事務総長が突如、信仰の中心地ともいえるバチカンへ-。外交未経験の民間大使が、教皇訪日を実現し、コロナ禍のなか帰国するまでの 1500 日を綴る。

産経新聞 2022/01/30

2021:11./ 253p
978-4-09-825413-2
¥946〔税込〕



80歳、何かあきらめ、何もあきらめない～気持ちが明るく楽になる、生き方とたたみ方～

萩本 欽一 著
主婦と生活社

老後のお金、定年後の過ごし方、伴侶との別れ、老いてからの子どもや自分の身体とのつき合い方、などなどの悩み・不安も笑って解決! 80歳を迎えた欽ちゃんが、人生最後まで楽しんで生きるためのヒントを紹介します。

産経新聞 2022/01/30

2021:11./ 191p
978-4-391-15653-9
¥1,540〔税込〕



101のデータで読む日本の未来(PHP新書 1295)

宮本 弘暁 著
PHP研究所

人口動態の変化、地球温暖化対策によるグリーン化、テクノロジーの進歩。この3つのメガトレンドの影響を、各種データとファクトから徹底的に検証。世界経済の変化の本質を明らかにし、日本経済の現在、そして未来に迫る。

産経新聞 2022/01/30

2022:1./ 306p
978-4-569-85112-9
¥1,089〔税込〕



古典とケーキ～甘い再読愉悅の読書案内～

梶村 啓二 著
平凡社

本とお菓子とお茶さえあればいい-。夏目漱石「文鳥」といちごジャムから、モンテニュ「エセー」とミルフィーユまで、古今東西 12 の古典の“底力”を解き明かし、それぞれに最適なお菓子とともに紹介する。

産経新聞 2022/01/30

2021:12./ 295p
978-4-582-83890-9
¥2,640〔税込〕





現代女性詩人論

中村稔 著
青土社

石垣りん、茨木のり子、多田智満子、白石かずこ、新川和江…。現代詩を切り開き、確立した女性詩人 10 人を取り上げ、詩集をひろく通覧し、ふかく読解・論評。その比類なき豊穡な世界を眺望する。

産経新聞 2022/01/30

2021:12./ 471p
978-4-7917-7437-1

¥3,080〔税込〕



極東ナチス人物列伝～日本・中国・「満洲国」に蠢いた異端のドイツ人たち～

田嶋信雄／田野大輔 編
大木毅／工藤章／熊野直樹／清水雅大 著

作品社

ナチス・ドイツの東アジア政策を担ったエージェントたちの軌跡を列伝形式で紹介。彼らとその周辺の関係者たちの動向を浮かび上がらせることで、矛盾と対立に満ちたドイツ=東アジア関係の実相に迫る。

産経新聞 2022/01/30

2021:12./ 328p
978-4-86182-882-9

¥2,970〔税込〕



ロミオとジュリエットと三人の魔女

門井 慶喜 著

講談社

1588年、小さな島国イリリアにたどり着いた青年シェイクスピアは、ヴェローナからやってきた美男美女カップルに出会う。だがカップルの間には不穏な空気が流れ…。シェイクスピア劇のオールスターキャストによる喜劇小説。

朝日新聞 2021/12/29

2021:11./ 316p
978-4-06-525741-8

¥1,925〔税込〕



ヴィネガー・ガール(語りなおしシェイクスピア 3)

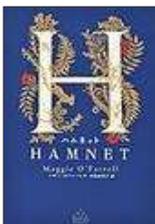
アン・タイラー／鈴木 潤 著
集英社

恋人なし、愛嬌なし、人生設計なし。そんな「じゃじゃ馬」ケイトの前に現れたのは…? 女性蔑視疑惑のあるシェイクスピアの「じゃじゃ馬ならし」を、軽やかに、しなやかに語りなおす。

朝日新聞 2021/12/29

2021:9./ 317p
978-4-08-773509-3

¥2,970〔税込〕



ハムネット(CREST BOOKS)

マギー・オファーレル 著
新潮社

シェイクスピアは、なぜ亡き息子の名を戯曲の題にしたのか? 「ハムレット」誕生の裏に、400年前のパンデミックによる悲劇があった。史実を大胆に再解釈し、シェイクスピアの妻を全く新しい姿で描き出した歴史小説。

朝日新聞 2021/12/29

2021:11./ 409p
978-4-10-590176-9

¥2,750〔税込〕





破蕾(講談社文庫 く 79-1)

雲居 るい 著
講談社

旗本の屋敷を訪ねたお咲は、ある女に科せられた「市中引廻し」の身代わりになれと命じられ...。「咲乱れ引廻しの花道」をはじめ、許されざる逢瀬に興じる男女の、狂気と艶美の悦びを描いた全3編を収録。

朝日新聞 2022/01/08

2021:11./ 187p
978-4-06-525788-3

¥704 [税込]



鬼憑き十兵衛(新潮文庫 お-111-1)

大塚 已愛 著
新潮社

父の仇を討つ。それが俺のすべてだ。復讐に燃える若武者と、彼に取り憑いた超絶美形の「鬼」。立ちはだかるは、人外の妖。仇を求めて流離う、奇妙な2人の道行きや、いかに...

朝日新聞 2022/01/08

2021:12./ 394p
978-4-10-103461-4

¥781 [税込]



絶滅魚クニマスの発見～私たちは「この種」から何を学ぶか～(新潮選書)

中坊 徹次 著
新潮社

秋田県田沢湖だけに生息した魚クニマスが絶滅した。が、遠く離れた山梨県西湖で生きていた。クニマスとはどのような魚かを説明し、田沢湖での絶滅の経緯、西湖での復活でもちあがった保全と里帰りについて語る。

朝日新聞 2022/01/08

2021:4./ 309p,15p
978-4-10-603864-8

¥1,870 [税込]



三千円の使いかた

原田 ひ香 著
中央公論新社

御厨家の人々が直面する、将来への不安や人生のピンチ。前向きに乗り越えたいからこそ、1円単位で大事に考えたい...。「節約」家族ストーリー。節約アイデアも満載。『アンデル 小さな文芸誌』連載を加筆、修正し単行本化。

朝日新聞 2022/01/08

2018:4./ 300p
978-4-12-005070-1

¥1,650 [税込]



ブラック企業～日本を食いつぶす妖怪～(文春新書 887)

今野 晴貴 著
文藝春秋

違法な労働条件で若者を働かせ使いつぶす「ブラック企業」。1500件にも及ぶ労働相談を受け付けてきたNPO法人「POSSE」の代表が、その実態を解説し、労働者、そして日本社会がこの問題にどう対応すべきかを論じる。

朝日新聞 2022/01/08

2012:11./ 245p
978-4-16-660887-4

¥847 [税込]





世界を一枚の紙の上に～歴史を変えたダイアグラムと主題地図の誕生～

大田 暁雄 著
オーム社

「世界」を描く。そんな不可能ともいえる課題を前に、科学者や地図学者たちは学際的な思考を発動させ、新しい表現を生み出した。19世紀初頭からおよそ150年に及ぶ科学的グラフィズムを辿る。『アイデア』連載を単行本化。

朝日新聞 2022/01/08

2021.12./ 269p
978-4-274-22785-1

¥4,950〔税込〕



あなたに安全な人

木村 紅美 著
河出書房新社

教え子をいじめ自殺に追いやってしまったかもしれない元教師の女と、デモの警備中に参加者を事故で死なせてしまったかもしれない男。ふたりは「感染者第一号」となることを誰もが恐れる地で出会い…。『文藝』掲載を書籍化。

朝日新聞 2022/01/08

2021.10./ 149p
978-4-309-02997-9

¥1,837〔税込〕



生活保護～知られざる恐怖の現場～(ちくま新書 1020)

今野 晴貴 著
筑摩書房

生活保護へのバッシングが高まり、取り締まりの強化や支給額の削減へと議論は進んでいる。しかし、私たちは生活保護の実態を知っているのだろうか。受給者をとりまく現実が、日本社会になにももたらすのかを解き明かす。

朝日新聞 2022/01/08

2013.7./ 254p
978-4-480-06728-9

¥880〔税込〕



ヤングケアラー～介護する子どもたち～

毎日新聞取材班 著
毎日新聞出版

ヤングケアラーたちの介護の実態をインタビューをもとにまとめるとともに、取材班が独自の全国集計から政府による全国調査に至るまでを取材した過程、現場でのやりとりや迷いを綴る。『毎日新聞』連載を単行本化。

朝日新聞 2022/01/08

2021.11./ 293p
978-4-620-32715-0

¥1,760〔税込〕



科学で大切なことは本と映画で学んだ

渡辺 政隆 著
みすず書房

ハメット、ヴォネガット、ダーウィン、「時をかける少女」、「アナと雪の女王」、寺田寅彦、中谷宇吉郎、グールド、ドーキンス…。本から映画、映画から本へ縦横自在に往き来して科学を語る。

朝日新聞 2022/01/08

2021.2./ 221p
978-4-622-08978-0

¥3,630〔税込〕





町田忍の縁起物のひみつ～「福」はいつも隣にいる～

町田 忍 著

山と溪谷社

だるま、招き猫、神輿…。身近にいるラッキーゴッドに感謝しよう！風俗文化研究家・町田忍が、全国を旅したフィールドワークのなかで出会い、取材し、記録してきた縁起物たちを発祥の理由や必然性、歴史等とともに紹介する。

朝日新聞 2022/01/08

2021:12./ 221p
978-4-635-82368-5

¥1,980〔税込〕



水俣曼荼羅～製作ノート～

原 一男+疾走プロダクション 著

皓星社

水俣病の患者や、解決のために戦っている人たちの感情のディテールを描くことに努めた。撮影に15年、編集に5年かかった映画「水俣曼荼羅」全3部のシナリオを採録。監督インタビュー、佐藤忠男「水俣曼荼羅論」も収録。

朝日新聞 2022/01/08

2021:12./ 255p
978-4-7744-0755-5

¥1,980〔税込〕



地域発ドキュメンタリーが社会を変える～作り手と映像祭の挑戦～

市村 元/音 好宏/「地方の時代」映像祭実行委員会 編

ナカニシヤ出版

地域発ドキュメンタリーの作り手たちは何をみつめ、社会をどう変えてきたのか。2020年に第40回を迎えた「地方の時代」映像祭の軌跡を関係者の声から振り返り、作品と映像祭の可能性と未来を展望する。

朝日新聞 2022/01/08

2021:11./ 12p,318p
978-4-7795-1606-1

¥2,750〔税込〕



賃労働の系譜学～フォーディズムからデジタル封建制へ～

今野晴貴 著

青土社

日本では長時間労働や非正規雇用の貧困が蔓延し、「人間を使い潰す資本主義」が続いてきた。なぜ労働環境は改善されないのか。日本の賃労働の系譜と構造を明らかにし、労働の視点から現代資本主義社会とその行く末を読み解く。

朝日新聞 2022/01/08

2021:11./ 323p,10p
978-4-7917-7394-7

¥2,420〔税込〕



その農地、私が買います～高橋さん家の次女の乱～

高橋久美子 著

ミシマ社

実家の畑が太陽光パネルに!? 農地は負の遺産と考える父親世代や足並みを揃えることを最優先する町の雰囲気と闘いを挑んだ、高橋家の次女の乱を綴る。『みんなのミシマガジン』連載に加筆修正、再構成して単行本化。

朝日新聞 2022/01/08

2021:10./ 230p
978-4-909394-58-3

¥1,870〔税込〕





賃金破壊～労働運動を「犯罪」にする国～

竹信三恵子 著
旬報社

1997年以降賃金さがり続けている日本で、関西生コン労組は賃上げ、残業規制などを実現した。そこへヘイト集団が妨害を加え、警察が弾圧に乗り出し…。なぜいま組合つづしが行なわれているのかを明らかにする迫真のルポ。

朝日新聞 2022/01/08、東京・中日新聞 2022/01/09

2021.11./ 259p
978-4-8451-1713-0
¥1,650〔税込〕



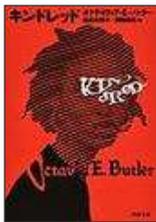
鈴木天眼 反戦反骨の大アジア主義

高橋信雄 著
あけび書房

「長崎から世界を見通す」という意気込みで『東洋日の出新聞』を創刊した鈴木天眼は、侵略肯定への変質を許さず、真のアジア主義を唱えた。権威にこびず、孤立を恐れなかったジャーナリストの先駆的な思想と行動の軌跡を追う。

朝日新聞 2022/01/08、東京・中日新聞 2022/01/23

2021.11./ 431p
978-4-87154-198-5
¥2,420〔税込〕



Kindred(河出文庫 ハ14-1)

オクテイヴィア・E・バトラー 著
河出書房新社

奴隷制下の米南部へタイムスリップした黒人女性・デイナは、ルーファスという白人少年の命を救う。彼の元への度重なるタイムスリップの理由が、次第に明らかになり…。人間の本質を問う、アフリカ系アメリカ人作家による名著。

朝日新聞 2022/01/08、読売新聞 2022/01/23

2021.11./ 542p
978-4-309-46744-3
¥1,672〔税込〕



トクヴィルと明治思想史～<デモクラシー>の発見と忘却～

柳 愛林 著
白水社

アメリカの社会・政治を観察し、新しい「デモクラシー」の概念を導き出したフランス人トクヴィル。自由民権運動から地方自治論、女性教育論、革命論まで、トクヴィルの思想を中心に、明治における西洋思想の受容を描く。

朝日新聞 2022/01/08、日本経済新聞 2022/01/08

2021.11./ 325p,9p
978-4-560-09865-3
¥3,740〔税込〕



ドーダーをめぐる堂々めぐり～正保四年に消えた絶滅鳥を追って～

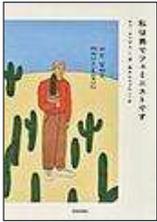
川端 裕人 著
岩波書店

江戸時代初期、日本に来ていたらしい絶滅鳥ドーダー。400年の時を超え、その後の行方を追って、四国へ長崎へ、チェコ、イギリス、オランダ、モーリシャス島へ。日本史と西洋史、博物学と生物学の間を行き来した探求の記録。

朝日新聞 2022/01/08、日本経済新聞 2022/01/22、読売新聞 2022/01/23

2021.11./
6p,238p,10p
978-4-00-061497-9
¥2,970〔税込〕





私は男でフェミニストです

チェ・スンボム 著
世界思想社

韓国の男子高校で働く 30 代男性教師による、フェミニズム・エッセイ。女性の告発や告白にとどまらず、男性に対し意識や行動変容を直接促し、ジェンダー問題を提起する。上野千鶴子の解説も収録。

朝日新聞 2022/01/08、日本経済新聞 2022/01/29

2021:11./ 193p
978-4-7907-1764-5

¥1,870〔税込〕



雪と人生(角川ソフィア文庫 L130-1)

中谷 宇吉郎 著
KADOKAWA

雪の結晶の研究や人口雪の製作で足跡を残し、寺田寅彦と並ぶ名随筆家として知られる物理学者、中谷宇吉郎。身近な生活の中にあるさまざまな話題から、科学的な見方とはどのようなものかを説いた作品を厳選。全 17 篇収録する。

朝日新聞 2022/01/15

2021:12./ 254p
978-4-04-400689-1

¥880〔税込〕



ポトスライムの舟(講談社文庫 つ31-1)

津村 記久子 著
講談社

芥川賞受賞作 29 歳、社会人 8 年目、手取り年収 163 万円。こんな生き方、働き方もある。新しい“脱力系”勤労小説 29 歳、工場勤務のナガセは、食い扶持のために、「時間を金で売る」虚しさをやり過ごす日々。ある日、自分の年収と世界一周旅行の費用が同じ一六三万円で、一年分の勤務時間を「世界一周という行為にも換金できる」と気付くが——。ユーモラスで抑制された文章が胸に迫り、働くことを肯定したくなる芥川賞受賞作。

朝日新聞 2022/01/15

2011:4./ 198p
978-4-06-276929-7

¥605〔税込〕



源平合戦の虚像を剥ぐ〜治承・寿永内乱史研究〜(講談社学術文庫)

川合 康 著
講談社

「平家物語史観」を乗り越え 内乱が生んだ異形の権力 鎌倉幕府の成立にせまる 屍を乗り越え進む坂東武者と文弱の平家公達——。我々がイメージする源平の角逐は、どこまで真実だったのか? 「平家物語史観」に基づく通説に対し、テキストの精緻な読みと実証的な探究によって、鋭く修正をせまる。さらに、源平合戦の実像や中世民衆の動向、内乱の歴史的所産としての鎌倉幕府の成立過程までを鮮やかに解明した、中世史研究の名品。現在でも、武士を暴力団にたとえ、その武力を超歴史的に批判するような見解は目についても、肝心の武士が「戦士」として行動する「戦争」や「武力」の在りかたについては、まだまだ未解明な部分が多い。……「源平合戦」にロマンを感じておられた方は、少々失望されることになるかもしれないが、本書としてはできるだけ現実的・冷静に、治承・寿永内乱期の戦争の実態を復元し、そのうえで、たんに戦乱の被害者にとどまらない中世民衆の動向や、内乱の歴史的所産としての鎌倉幕府の成立を、検討していきたいと考えている。——<本書「はじめに」より>

朝日新聞 2022/01/15

2010:4./ 285p
978-4-06-291988-3

¥1,221〔税込〕





嘘つきユリコの栄光 (1) (マガジンエッジ KC)

田中 現兔 著
講談社

人気者になりたいけど自分には何もない...そんな普通の中学生の百合子は、入学初日に「セレブでイケメンなクラスメイトの婚約者」という嘘をついてしまう。自分でもすぐバレと思っていたのに、なぜかその男子は嘘に乗ってきて婚約者のフリをしてくれることに！嘘に嘘を重ねていくうち、自分のためだったその行為は人助けにもなっていく...!?

朝日新聞 2022/01/15

2021:11./ 160p
978-4-06-525961-0

¥715 [税込]



ブルシット・ジョブの謎〜クソどうでもいい仕事はなぜ増えるか〜(講談社現代新書 2645)

酒井 隆史 著
講談社

私たちはなぜブルシット・ジョブ(クソどうでもいい仕事)に苦しみ続けるのか? 資本主義や効率化が進めば進むほど無意味な仕事が生まれる不思議。世界的現象の「謎」を解き明かす。

朝日新聞 2022/01/15

2021:12./ 254p
978-4-06-526659-5

¥1,012 [税込]



江戸〜平安時代から家康の建設へ〜(中公新書 2675)

齋藤 慎一 著
中央公論新社

江戸の繁栄はいかにして築かれたのか。平安時代末期の秩父平氏の支配から、太田道灌の築城、北条氏の入城、家康の大工事まで、新知見を踏まえながら、江戸が豪華絢爛な都市となるまでの変遷過程を解明する。

朝日新聞 2022/01/15

2021:12./ 9p,217p
978-4-12-102675-0

¥902 [税込]



浮遊霊ブラジル(文春文庫 つ 21-3)

津村 記久子 著
文藝春秋

初の海外旅行を前に急逝した私。幽霊となって念願の地をめざすが...。表題作をはじめ、2013年川端康成文学賞受賞作「給水塔と亀」など、卓越したユーモアと鋭くも優しいまなざしで人々を描いた全7作を収めた短篇集。

朝日新聞 2022/01/15

2020:1./ 181p
978-4-16-791421-9

¥726 [税込]



テヘランでロリータを読む(河出文庫 ナ 3-1)

アーザル・ナフィーシー 著
河出書房新社

テヘランの大学で英文学を講じていた著者は、抑圧的な大学当局に嫌気がさして辞職し、優秀な女子学生7人とともに、ひそかに西洋文学を読む研究会をはじめた...。激動のイランで暮らした経験を綴った文学的回想録。

朝日新聞 2022/01/15

2021:11./ 585p
978-4-309-46743-6

¥1,672 [税込]





しらふで生きる～大酒飲みの決断～(幻冬舎文庫 ま-34-3)

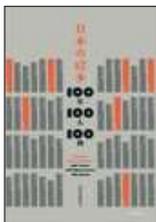
町田康 著
幻冬舎

30年間毎日酒を飲み続けた作家は、「酒をやめよう」と突如、思い立った。禁酒によって生じた精神ならびに身体の変化、苦悩と葛藤、その心境を微細に綴る。

朝日新聞 2022/01/15

2021.12./ 264p
978-4-344-43146-1

¥737〔税込〕



日本の絵本 100年 100人 100冊

広松 由希子 著
玉川大学出版部

絵本の評論や展示企画などを手がける広松由希子が所蔵する絵本のなかから、日本の絵本画家/イラストレーターの作品に限り、大正から平成までの約100年の間に出版された絵本100作品を紹介。表紙・本文の図版も多数掲載。

朝日新聞 2022/01/15

2021.12./ 223p
978-4-472-12014-5

¥7,700〔税込〕



教養としての仏教思想史(ちくま新書 1618)

木村 清孝 著
筑摩書房

仏教はいかにして現在の形になったのか。数多く存在する部派・宗派を歴史の中に位置づけ、膨大な知の全貌を俯瞰。地域ごとの展開にも目を配り、わかりやすく解説する。これだけは知っておきたい仏教の知識が満載の入門書。

朝日新聞 2022/01/15

2021.12./ 395p,19p
978-4-480-07430-0

¥1,265〔税込〕



残月記

小田雅久仁 著
双葉社

近未来の日本、人々を震撼させている感染症「月昴」に冒された若者。カリスマ暴君の歪んだ願望に運命を翻弄されながら、愛する女のために抗い続け…。表題作をはじめ全3編を収録。『小説推理』掲載を書籍化。

朝日新聞 2022/01/15

2021.11./ 381p
978-4-575-24464-9

¥1,815〔税込〕



北条義時～これ運命の縮まるべき端か～(ミネルヴァ日本評伝選)

岡田 清一 著
ミネルヴァ書房

源氏将軍が途絶えた後、実質的に権力をふるい、承久の合戦では、幕府軍がはじめて武力で朝廷を制圧。戦後、三上皇を配流し、その後の朝幕関係を大きく変えた。時代により評価が揺れる北条義時の実像に迫る。

朝日新聞 2022/01/15

2019.4./ 9p,276p,10p
978-4-623-08604-7

¥3,300〔税込〕





源頼朝～すでに朝の大將軍たるなり～(ミネルヴァ日本評伝選)

川合 康 著
ミネルヴァ書房

鎌倉幕府の創始者・源頼朝。平治の乱に敗れ伊豆に流されるも一転、平氏打倒の挙兵後、鎌倉を本拠に勢力を伸ばした。不遇の半生を経て天下を平定、武家政権の基礎を確立した、その足跡と人物像に迫る。

朝日新聞 2022/01/15

2021:6./
13p,375p,15p
978-4-623-09212-3
¥3,850〔税込〕



北条義時(人物叢書 新装版)

安田 元久 著
吉川弘文館

朝日新聞 2022/01/15

1986:4./ 278p
978-4-642-05033-3
¥2,200〔税込〕



帝国のヴェール～人種・ジェンダー・ポストコロニアリズムから解く世界～

荒木 和華子／福本 圭介 著
明石書店

「帝国のヴェール」とは、人間を抑圧しつつ、それを隠蔽する何ものである。アメリカ帝国の形成と人種とジェンダーの関わり、ポストコロニアリズムの時代におけるジェンダーとセクシュアリティの問題などを考察する。

朝日新聞 2022/01/15

2021:11./ 378p
978-4-7503-5295-4
¥3,300〔税込〕



旅する小舟

ペーター・ヴァン・デン・エンデ 著
求龍堂

2人の人物が、1枚の紙から1艘の小舟を折りあげる。小舟は海に放たれ、大洋をたった一人で旅に出る。数々の冒険と出会いを経た小舟は-。モノクロで描かれた文字なし絵本。ジャケットそでに岸本佐知子による解説付き。

朝日新聞 2022/01/15

2021:11./ 1冊(ページ
付なし)
978-4-7630-2128-1
¥3,080〔税込〕



毛沢東の強国化戦略 1949-1976(慶應義塾大学東アジア研究所現代中国研究選書)

山口 信治 著
慶應義塾大学出版会

なぜ急進的な国家建設を追求したのか? 朝鮮戦争、台湾海峡危機、中ソ関係の悪化などの国際情勢の変動が、いかに毛沢東の脅威認識に影響を与え、強国化に向かわせたかを、一次資料から丹念に検証する。

朝日新聞 2022/01/15

2021:10./
5p,439p,30p
978-4-7664-2776-9
¥5,940〔税込〕





自意識とコメディの日々

オークラ 著
太田出版

1994年、芸人から放送作家へ転身したオークラは、バナナマン、東京03たちと数々のユニットコントを生み出していく。そして「カルチャーとコントの融合」という夢の実現を目指し…。放送作家オークラのお笑い自伝。

朝日新聞 2022/01/15

2021.12./ 269p
978-4-7783-1779-9

¥1,760〔税込〕



病んだ言葉癒やす言葉

阿部公彦 著
青土社

言葉を読むとは何か。言葉を使うとは何か。言葉を学ぶとは何か。そして、言葉を守るとは何か。文学作品から言語教育まで、英文学教授が「言葉の生理」について綴った31編を収録する。

朝日新聞 2022/01/15

2021.11./ 367p
978-4-7917-7428-9

¥2,200〔税込〕



ニッポンの音楽批評 150年◆100冊

栗原 裕一郎、大谷 能生 著
リットーミュージック

日本人はどのように音楽を語ってきたのか。1876年から2025年まで、各時代の音楽を取り巻く「通史」と、その時代の代表的な「音楽の本」20冊を解説。国会図書館サイトで読める書籍のQRコード付き。

朝日新聞 2022/01/15

2021.11./ 447p
978-4-8456-3677-8

¥2,750〔税込〕



社会のなかの「少年院」～排除された子どもたちを再び迎えるために～

少年の社会復帰に関する研究会 編
作品社

「非行少年に甘い」「だから少年非行が減らない」は本当なのか？少年院で実際に行われている社会復帰支援をはじめとする取り組みを明らかにし、幅広い観点から社会と当事者たちへの教育や支援の今後について提言する。

朝日新聞 2022/01/15

2021.11./ 335p
978-4-86182-873-7

¥2,970〔税込〕



図説鎌倉幕府

田中 大喜 著
戎光祥出版

地方政権から全国政権へ、朝廷に翻弄される首脳部、モンゴル襲来という国難への対処、全国同時蜂起による滅亡…。最新の研究成果をもとに、複雑な機構や政策など、鎌倉幕府の全貌を豊富な図版とともに解説。

朝日新聞 2022/01/15

2021.5./ 204p
978-4-86403-387-9

¥1,980〔税込〕





この30年の小説、ぜんぶ〜読んでしゃべって社会が見えた〜(河出新書 043)

高橋 源一郎／斎藤 美奈子 著

河出書房新社

本読みのプロである高橋源一郎と斎藤美奈子が、平成から令和までの約30年間に刊行された本を通じて、日本社会の深層を読み解いていく対談集。『SIGHT』他掲載に語り下ろしを加えて書籍化。

2021.12./ 351p
978-4-309-63145-5

¥1,078 [税込]



朝日新聞 2022/01/15、産経新聞 2022/01/16



一万円選書〜北国の小さな本屋が起こした奇跡の物語〜(ポプラ新書 217)

岩田 徹 著

ポプラ社

特製カルテをもとに、その人にあった一万円分の本を選書する「一万円選書」。多くの感動を生んでいるこのサービスを行う北海道砂川市のいわた書店の哲学を伝える。一万円選書を疑似体験できる一冊。

2021.12./ 182p
978-4-591-17208-7

¥990 [税込]



朝日新聞 2022/01/15、産経新聞 2022/01/30



保健所の「コロナ戦記」 TOKYO2020-2021(光文社新書 1171)

関なおみ 著

光文社

東京の保健所・都庁で COVID-19 対策の最前線に立ち続けた公衆衛生医師が記した、2020年1月から2021年9月までの壮絶な記録。国立国際医療研究センター・大曲貴夫との対談も収録。

2021.12./ 395p
978-4-334-04578-4

¥1,210 [税込]



朝日新聞 2022/01/15、東京・中日新聞 2022/01/16



言の葉の森〜日本の恋の歌〜

チョン・スユン 著

亜紀書房

千年の時と国境を超え、<恋の歌>が今もなお瑞々しく響く。韓国の人気翻訳家が、小野小町、紫式部などが詠んだ熱烈で芳潤な65首をモチーフに、2つの言語の間を行き来しながら日々の生活や仕事について情感ゆたかに描く。

2021.11./ 237p
978-4-7505-1721-6

¥1,760 [税込]



朝日新聞 2022/01/15、日本経済新聞 2022/01/15



ワクチンの噂〜どう広まり、なぜいつまでも消えないのか〜

ハイジ・J・ラーソン 著

みすず書房

ワクチンを打つと不妊になる。ワクチンを打つと自閉症になる…。ワクチンをめぐる噂やデマはどう広まり、なぜいつまでも消え去らないのか。国際的研究プロジェクトを率いてきた人類学者が、噂の生態系を明らかにする。

2021.11./
14p,206p,22p
978-4-622-09052-6

¥3,740 [税込]



朝日新聞 2022/01/15、日本経済新聞 2022/01/22



共振する帝国～朝鮮人皇軍兵士と日系人米軍兵士～

T. フジタニ 著

岩波書店

一見対照的な日米は総力戦下、多人種を統合した「帝国」として相似していく。朝鮮人と日系人をめぐる政策が排除と包摂の間で揺れ動きながら変容する過程、人種化されたマイノリティの経験と表象を描き出した名著。

朝日新聞 2022/01/22

2021:11./
24p,396p,60p
978-4-00-061494-8

¥4,950〔税込〕



国語をめぐる冒険(岩波ジュニア新書 938)

渡部 泰明／平野 多恵／出口 智之／田中 洋美／仲島 ひとみ 著

岩波書店

国語は、人間として成長することと深く関わる科目。人の心との出会い、他者との出会い、言葉や国語との出会い…。さまざまな作品を取り上げながら、国語という冒険の旅で得る出会いを紹介する。コラムも掲載。

朝日新聞 2022/01/22

2021:8./ 10p,227p
978-4-00-500938-1

¥968〔税込〕



聖なるズー(集英社文庫 は56-1)

濱野 ちひろ 著

集英社

犬や馬をパートナーとする動物性愛者「ズー」。彼らと寝食をともにしながら、自身の性暴力体験を背景に、人間にとって愛とは何か、暴力とは何かを考察する。人間の深淵に迫るノンフィクション。

朝日新聞 2022/01/22

2021:11./ 299p
978-4-08-744321-9

¥726〔税込〕



徴産制～Boys,give birth for our nation!～(新潮文庫 た-119-2)

田中 兆子 著

新潮社

2093年、疫病により女性人口が激減した日本で、男性に性転換を課し、出産を奨励する制度が施行された。立場も職業も思想も異なる5人の男性が<女>として味わう理不尽と矛盾、そして希望とは…。

朝日新聞 2022/01/22

2021:12./ 370p
978-4-10-120622-6

¥737〔税込〕



少女たちの戦争

中央公論新社 編

中央公論新社

若い兵士に言えなかった「サヨナラ」の一言、東京大空襲の翌日に食べた<最後の昼餐>…。瀬戸内寂聴から佐野洋子まで、太平洋戦争開戦時に20歳未満だった女性たち27名が、非常時の日常を綴る。

朝日新聞 2022/01/22

2021:11./ 219p
978-4-12-005476-1

¥1,430〔税込〕





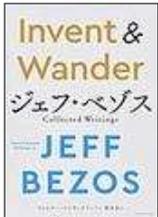
太宰治論

安藤 宏 著
東京大学出版会

太宰治の作品と生涯の全貌を、近代という時代とともに解き明かす。日本近代文学研究の第一人者・安藤宏が40年、太宰治について考えてきた足跡をまとめる。多数のコラムのほか、人名索引・太宰治作品名索引も掲載。

朝日新聞 2022/01/22

2021:12./
11p,1184p,18p
978-4-13-080068-6
¥13,200〔税込〕



Invent & Wander～ジェフ・ベゾス Collected Writings～

ジェフ・ベゾス／ウォルター・アイザックソン 著
ダイヤモンド社

アマゾンの驚異的成功を生んだ、考え方・ロジック・原則のすべて。1997年から2019年までの、ジェフ・ベゾスによる株主への手紙を掲載するほか、インタビュー、講演、公聴会での証言などをテーマ別に収録する。

朝日新聞 2022/01/22

2021:12./ 405p
978-4-478-11213-7
¥1,980〔税込〕



国語教育 混迷する改革(ちくま新書 1468)

紅野 謙介 著
筑摩書房

「論理」と「文学」を分けると何が起きるか。今後の高校教育の方向性を示す大学入学共通テストが扱う実用文・複数資料の構造的な欠陥を、指導要領の解説本や共通テストの試行調査から読み解く。「国語教育の危機」の続編。

朝日新聞 2022/01/22

2020:1./ 280p
978-4-480-07280-1
¥968〔税込〕



自慢話でも武勇伝でもない「一般男性」の話から見えた生きづらさと男らしさのこと

清田隆之(桃山商事) 著
扶桑社

妻に暴力を振るった経験、孤独と非モテに苦しんだ過去、元妻の浮気を黙認した義母に対する恨み…。10人の一般男性に、男としての「生きづらさ」を聞いたインタビュー&論考をまとめる。『yomyom』連載を加筆し書籍化。

朝日新聞 2022/01/22

2021:12./ 203p
978-4-594-08953-5
¥1,540〔税込〕



最後の角川春樹

伊藤 彰彦 著
毎日新聞出版

本と映画と音楽の融合、父との闘争と和解、価値破壊と文化創造…破格の構想力によって、「出版」は「事件」となった。幾多の受難から立ち上がった角川春樹が、少年時代から現在までを語る。

朝日新聞 2022/01/22

2021:11./ 319p
978-4-620-32710-5
¥2,090〔税込〕



暮らしの民藝～選び方・愉しみ方～

萩原 健太郎 著
エクスナレッジ

美しい手仕事が、日常をもっと愛おしくする。暮らしのなかに民藝を上手に取り入れている 14 組の生活スタイルを紹介する。民藝にまつわる飲食店や道具の店も掲載。データ:2021 年 11 月現在。

朝日新聞 2022/01/22

2021:12./ 159p
978-4-7678-2959-3

¥1,760〔税込〕



西ネパール・ヒマラヤ最奥の地を歩く～ムスタン、ドルポ、フムラへの旅～

稲葉 香 著
彩流社

難病・リウマチを抱えながら、チベット国境に近いヒマラヤの最奥の地ドルポで約 100 日に及ぶ越冬を単独実現させた 40 代女性登山家が、この地域の魅力を伝える。写真も多数掲載。

朝日新聞 2022/01/22

2022:1./ 174p
978-4-7791-2774-8

¥2,420〔税込〕



銀河一族～歌集～

小佐野弾 著
短歌研究社

折れさうな氷柱を胸に突き立てて螺旋階段降りてくるなり 政商と呼ばれた一族に生まれた葛藤と解放をうたう。『短歌研究』連載「銀河一族」シリーズ 240 首を中心に、2018 年から 2021 年までの歌を収録した第 2 歌集。

朝日新聞 2022/01/22

2021:11./ 139p
978-4-86272-693-3

¥2,200〔税込〕



戦争論～私たちにとって戦いとは～

マーガレット・マクミラン 著
えにし書房

世界中を古今東西、縦横無尽に駆け回り、戦争を真正面からとらえ、約 400 のテーマを簡潔丁寧に論じた、戦争全般についての基本図書。2018 年の BBC ラジオ講義をもとに書き下ろした人文書。

朝日新聞 2022/01/22

2021:10./ 363p 図版
16p
978-4-86722-104-4

¥3,960〔税込〕



六人の?つきな大学生

浅倉 秋成 著
KADOKAWA

成長著しい IT 企業の最終選考。最後に残った 6 人に出された課題は、「1 人の内定者を 6 人で決めること」。そんな中、6 人それぞれの「罪」が告発された 6 通の封筒が発見される。彼らの?と罪とは。そして「犯人」の目的は...

朝日新聞 2022/01/22、朝日新聞 2022/01/22

2021:3./ 299p
978-4-04-109879-0

¥1,760〔税込〕





国語教育は文学をどう扱ってきたのか

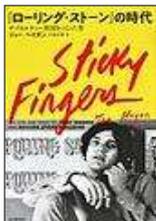
幸田国広 著
大修館書店

世紀の大改革といわれる高校国語の科目再編。「言語の教育」と「文学の教育」の狭間で揺れ動いてきた戦後の国語教育における文学の扱いの変遷を丹念に検証。今後の国語科や文学の教育のあり方について展望も示す。

朝日新聞 2022/01/22、朝日新聞 2022/01/22

2021:8./ 271p
978-4-469-22274-6

¥2,420〔税込〕



『ローリング・ストーン』の時代～サブカルチャー帝国をつくった男～

ジョー・ヘイガン 著
河出書房新社

セックス、ドラッグ、ロックンロール! 「アメリカ史上もっとも自由な世代」を象徴する雑誌『ローリング・ストーン』の創刊者ヤン・ウェナーの半生を、多数のインタビューや雑誌の盛衰、時代の潮流とともに描く。

朝日新聞 2022/01/22、東京・中日新聞 2022/01/23

2021:12./ 814p
978-4-309-29167-3

¥7,260〔税込〕



愛なき世界<上>(中公文庫 み 51-2)

三浦 しをん 著
中央公論新社

恋愛・生殖に興味ゼロの院生・本村紗英に、洋食屋の見習い・藤丸陽太が恋をした。愛しい葉っぱの研究に没頭中の本村に、藤丸の想いは伝わるのか…。 「藤丸くんに伝えられ植物学入門(上)」も収録。

朝日新聞 2022/01/22、読売新聞 2022/01/23

2021:11./ 338p
978-4-12-207143-8

¥748〔税込〕



愛なき世界<下>(中公文庫 み 51-3)

三浦 しをん 著
中央公論新社

葉っぱの実験をこつこつと続ける院生・本村をどん底に叩き落した大失敗。研究仲間も戸惑うなか、窮地に光を投げかけたのは料理人・藤丸の反応で…。 「藤丸くんに伝えられ植物学入門(下)」も収録。

朝日新聞 2022/01/22、読売新聞 2022/01/23

2021:11./ 300p
978-4-12-207144-5

¥726〔税込〕



時間の終わりまで～物質、生命、心と進化する宇宙～

ブライアン・グリーン 著
講談社

なぜ物質が生まれ、生命が誕生し、私たちが存在するのか? 進化する宇宙は私たちをどこへ連れていくのか? ビッグバンから時空の終焉までを、現代物理学の知見をもとに、「存在とは何か」という根源的な問いから描き出す。

朝日新聞 2022/01/22、日本経済新聞 2022/01/22

2021:12./ 637p
978-4-06-526106-4

¥2,860〔税込〕





感情史とは何か

バーバラ・H. ローゼンワイン／リッカルド・クリスティアーニ 著
岩波書店

恐怖、怒り、幸せ。感情への眼差しは歴史学をいかに変えるのか。感情史の魅力と最新動向を、「科学」「アプローチ」「身体」「未来」の切り口から紹介する。学際研究への示唆に富んだ入門書。

朝日新聞 2022/01/29

2021:1./
10p,234p,12p
978-4-00-061450-4
¥2,970〔税込〕



デジタルリセット(角川ホラー文庫 あ 10-1)

秋津 朗 著
KADOKAWA

理想の環境を求めるその男は、自らの基準にそぐわない人間や動物を殺しては、別の土地で新たな人生を始める「リセット」を繰り返していた。一方、フリープログラマーの相川譲治は、シングルマザーの姉親子の失踪に気づき...

朝日新聞 2022/01/29

2021:12./ 349p
978-4-04-111987-7
¥792〔税込〕



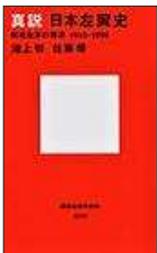
ルパンの娘(講談社文庫 よ 38-5)

横関 大 著
講談社

わたしは泥棒の娘。結婚を考えていた彼は、警察一家の長男だった。泥棒の娘である華の恋人は刑事の和馬。ある日、華の祖父が殺され、和馬が捜査することになるが...。2人の恋の行方は？ 犯人は？

朝日新聞 2022/01/29

2017:8./ 473p
978-4-06-293746-7
¥924〔税込〕



真説日本左翼史~戦後左派の源流 1945-1960~(講談社現代新書 2620)

池上 彰／佐藤 優 著
講談社

日本の左翼は何を達成し、なぜ失敗したのか？ 池上彰と佐藤優が、忘れられた近現代史を検証。第二次世界大戦後、1945?1960年の左翼運動の歴史を日本社会党と共産党の動向を柱に論じる。

朝日新聞 2022/01/29

2021:6./ 229p
978-4-06-523534-8
¥990〔税込〕



星月夜

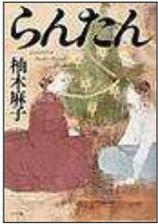
李琴峰 著
集英社

日本語教師の職に就いた台湾人・柳凝月。新疆ウイグル自治区出身で、日本の大学院を目指す留学生の玉麗吐孜。居場所を探し続ける彼女たちは、少しずつ距離を縮めていくが...。静かな祈りの物語。『すばる』掲載を書籍化。

朝日新聞 2022/01/29

2020:7./ 151p
978-4-08-771719-8
¥1,650〔税込〕





らんとん

柚木 麻子 著
小学館

大正最後の年。一色帛児は、渡辺ゆりにプロポーズした。彼女からの承諾の条件は、シスターフッドの契りを結ぶ河井道と3人で暮らすというもので…。『きらら』『WEB きらら』連載を加筆し、書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2022/01/29

2021:11./ 497p
978-4-09-386624-8
¥1,980〔税込〕



BUTTER(新潮文庫 ゆ-14-3)

柚木 麻子 著
新潮社

男たちの財産を奪い、殺害した容疑で逮捕された梶井真奈子。週刊誌記者の町田里佳は、梶井の面会を取り付けるが、欲望に忠実な梶井の言動に触れるたび、里佳の内面も外見も変貌。親友や恋人の運命をも変えていき…。

朝日新聞 2022/01/29

2020:2./ 591p
978-4-10-120243-3
¥990〔税込〕



何者(新潮文庫 あ-78-1)

朝井 リョウ 著
新潮社

就活の情報交換をきっかけに集まった拓人たち。自分を生き抜くためにほんとうに必要なことは何なのか。この世界を組み変える力はどこから生まれ来るのか。就活大学生の自意識をあぶり出す、リアルで切実な長編小説。

朝日新聞 2022/01/29

2015:7./ 346p
978-4-10-126931-3
¥693〔税込〕



正欲

朝井 リョウ 著
新潮社

生き延びるために、手を組みませんか。いびつで孤独な魂が奇跡のように巡り遭い…。共感を呼ぶ傑作か？目を背けたくなる問題作か？朝井リョウの作家生活10周年を記念した書下ろし長篇小説。

朝日新聞 2022/01/29

2021:3./ 379p
978-4-10-333063-9
¥1,870〔税込〕



彼岸花が咲く島

李 琴峰 著
文藝春秋

記憶を失くした少女・宇実が流れ着いたのは、ノロと呼ばれる指導者が統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった。宇実は島の少女・游娜と少年・拓慈と、この島の深い歴史に導かれていき。『文學界』掲載を単行本化。

朝日新聞 2022/01/29

2021:6./ 188p
978-4-16-391390-2
¥1,925〔税込〕





新しい星

彩瀬 まる 著
文藝春秋

「普通」の人生を謳歌していたはずの4人に訪れる、思いがけない転機。コロナ時代の「普通」に揺れる、ある4人の男女のリアル。愛するものの喪失と再生を描く8つの物語。『別冊文藝春秋』掲載を単行本化。

朝日新聞 2022/01/29

2021:11./ 229p
978-4-16-391468-8

¥1,650〔税込〕



ナイルパーチの女子会(文春文庫 ゆ9-3)

柚木 麻子 著
文藝春秋

商社で働く栄利子は、主婦プロガーの翔子と意気投合。だが他人との距離感をうまくつかめない栄利子はやがて翔子に拒否され、悩みを相談した同僚の男と寝たことが彼の婚約者にばれてしまう。一方、翔子も実家に問題を抱え...

朝日新聞 2022/01/29

2018:2./ 403p
978-4-16-791012-9

¥825〔税込〕



記憶の中の誘拐〜赤い博物館〜(文春文庫 お68-3)

大山 誠一郎 著
文藝春秋

未解決事件などの捜査書類を収蔵する<赤い博物館>館長の冴子。ある日、26年前に起きた奇妙な誘拐事件について相談され...。表題作をはじめ、ミステリ全5編を収録する。『別冊文藝春秋』等掲載を文庫化。

朝日新聞 2022/01/29

2022:1./ 246p
978-4-16-791813-2

¥836〔税込〕



空白の起点(徳間文庫 トクマの特選! さ1-125)

笹沢左保 著
徳間書店

通過する急行列車の窓から父親の転落死を目撃した小梶鮎子。被害者に多額の保険金が掛けられていたことから、保険調査員・新田純一は、詐欺目的の殺人を疑う。鉄壁のアリバイ崩しに挑む彼をあざ笑うように第二の死が...

朝日新聞 2022/01/29

2021:12./ 344p
978-4-19-894701-9

¥869〔税込〕



まだまだという言葉

クォン・ヨソン 著
河出書房新社

母と姉に金を持ち逃げされた娘の苦境、正規と非正規の狭間で翻弄される期間制教師、神様を信じる母と息子の残酷な友人たち...。現代韓国社会の歪みの底をさまざま、家族をめぐる珠玉の8篇を収録した短篇集。

朝日新聞 2022/01/29

2021:11./ 235p
978-4-309-20842-8

¥2,475〔税込〕





ミス・パーフェクトが行く!

横関 大 著
幻冬舎

厚生労働省雇用環境・均等局総務課所属のキャリア官僚、真波莉子。進むところ敵なしの彼女は、外交、経済、パワハラ、セクハラなど、さまざまな問題を解決し…。令和のパーフェクトヒロイン誕生! 華麗なる世直しエンタメ。

朝日新聞 2022/01/29

2021:12./ 351p
978-4-344-03887-5

¥1,760 [税込]



ポラリスが降り注ぐ夜

李 琴峰 著
筑摩書房

多様な性的アイデンティティを持つ女たちが集う二丁目のバー「ポラリス」。冴え冴えと輝く星に手を伸ばすように、魂の、身体の、触れあいを求めて二丁目を訪れる女たちの7つの物語。気鋭の台湾人日本語作家による純恋小説。

朝日新聞 2022/01/29

2020:2./ 265p
978-4-480-80492-1

¥1,760 [税込]



アジアン・コモンズ〜いま考える集住と人のつながりとデザイン〜

篠原 聡子 著
平凡社

ソウル、台北、バンコクほか、中間層の住まいとして集合住宅居住が定着しているアジア7都市を取り上げ、モダンハウジングの事例を中心に、住人の建築への関与=住みこなしなどを調査報告。具体的なデザインパターンも掲載。

朝日新聞 2022/01/29

2021:10./ 361p
978-4-582-54469-5

¥3,740 [税込]



感情史の始まり

ヤン・プランパー 著
みすず書房

感情とは、感情史とは何か。感情をめぐる社会構築主義と普遍主義を架橋し、グランドセオリーを描く試論。歴史学における感情の扱い方の手法と重要性を説く。用語解説や主要文献目録も収録。

朝日新聞 2022/01/29

2020:11./
432p,144p,13p
978-4-622-08953-7

¥6,930 [税込]



はじめての西洋ジェンダー史〜家族史からグローバル・ヒストリーまで〜

弓削 尚子 著
山川出版社

歴史における家族、女性性や男性性の変容、男女二元論のプロセス、身体的性差の認識の変化といったジェンダー・イシューに、歴史学はどのような問題意識をもったのか。ジェンダー史の視点から考察する。

朝日新聞 2022/01/29

2021:12./ 302p
978-4-634-64095-5

¥2,530 [税込]





ネット社会と民主主義～「分断」問題を調査データから検証する～

辻 大介 編
有斐閣

インターネットは民主主義の分断を促進するように作用しているのか。ネット研究の第一人者らが、複数の調査データを用いつつ、社会学・社会心理学の見地から、多角的かつ実証的に診断し、分極化に向かう現代日本の様態を示す。

朝日新聞 2022/01/29

2021:11./ 8p,245p
978-4-641-17472-6

¥3,190〔税込〕



怒りの人類史～ブッダからツイッターまで～

バーバラ・H・ローゼンワイン 著
青土社

人類は怒りとどのように対峙してきたのか。古代のブッダから現代のツイッターまで、怒りに対するさまざまな思想と表現を通して、わたしたちの最も身近な感情に迫る。

朝日新聞 2022/01/29

2021:2./ 296p,6p
978-4-7917-7359-6

¥2,640〔税込〕



台湾文学ブックカフェ<1> 蝶のしるし

白水紀子／呉佩珍／山口守 編
江鵠／章?／ラムル・パカウヤン／盧慧心／平路／柯裕?／張亦絢／陳雪 著
作品社

多角的なアイデンティティが絡み合う現代台湾が立ち現れる小説集。1は、台湾の代表的なクイア作家・陳雪による表題作をはじめ、平路「モニークの日記」など、女性作家の作品全8篇を収録する。

朝日新聞 2022/01/29

2021:12./ 273p
978-4-86182-877-5

¥2,640〔税込〕



台湾女性文学の黎明～描かれる対象から語る主体へ 1945-1949～

豊田 周子 著
関西学院大学出版会

「台湾女性文芸」という参照枠を通して、台湾と日本そして中国の女性に関わる文化的連続性や共時性を検証。歴史の間に埋もれた台湾女性の主体的な文芸活動を文学研究の立場から掘り起こし、彼女たちの声を文学史に位置づける。

朝日新聞 2022/01/29

2021:12./ 11p,231p
978-4-86283-325-9

¥5,280〔税込〕



感情の歴史<第1巻> 古代から啓蒙時代まで

ジョルジュ・ヴィガレロ 編
藤原書店

「身体の歴史」「男らしさの歴史」に続く三部作「歴史の時空」シリーズ完結編。人類と共に存在する感情の歴史を探る。1は、古代から啓蒙の時代までを取り上げ、古代ギリシアから西洋近代に至る一大パノラマを築き上げる。

朝日新聞 2022/01/29

2020:4./ 751p 図版
24p
978-4-86578-270-7

¥9,680〔税込〕





感情の歴史<2> 啓蒙の時代から 19 世紀末まで

アラン・コルバン 編
藤原書店

「身体の歴史」「男らしさの歴史」に続く三部作「歴史の時空」シリーズ完結編。人類と共に存在する感情の歴史を探る。2 は、革命と戦争の時代、18 世紀から 19 世紀末までを取り上げ、感情の近代的相貌を描き尽くす。

朝日新聞 2022/01/29

2020:11./ 669p 図版
32p
978-4-86578-293-6
¥9,680 [税込]



感情の歴史<3> 19 世紀末から現代まで

ジャン＝ジャック・クルティエヌ 編
藤原書店

「身体の歴史」「男らしさの歴史」に続く三部作「歴史の時空」シリーズ完結編。人類と共に存在する感情の歴史を探る。3 は、「感情を考える」「トラウマ」などに分け、19 世紀末?現代における感情の様態を考察する。完結。

朝日新聞 2022/01/29

2021:10./ 837p 図版
24p
978-4-86578-326-1
¥9,680 [税込]



痛みと感情のイギリス史

後藤 はる美 編
東京外国語大学出版会

痛みは普遍的なのか。神経医学の発達、貧者の救済、聖職者の処刑、宗教改革期の病、魔女裁判、夫婦間の虐待訴訟、動物の生体解剖などを題材に、生と痛みが絡まり合う感情の諸相を、イギリス史を舞台に描き出す。

朝日新聞 2022/01/29

2017:3./ 363p
978-4-904575-59-8
¥2,860 [税込]



皆のあらばしり

乗代 雄介 著
新潮社

高校の歴史研究部に所属するぼくは、ある日皆川城址で中年男に出会う。男は、ぼくが入手した旧家の蔵書目録を奪い取った。うさん臭さを警戒しつつ、ぼくは男の博識に惹かれていき…。『新潮』掲載を単行本化。

朝日新聞 2022/01/29、産経新聞 2022/01/30

2021:12./ 133p
978-4-10-354371-8
¥1,650 [税込]



タイの僧院にて 新版

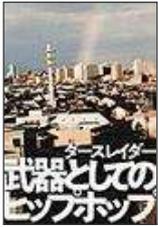
青木保 著
青土社

文化人類学者が、タイ・バンコクの僧院で得度から還俗までの僧修行を实践。得度の儀礼、僧の義務、僧の日常生活、仏教徒との交流、同僚僧との交友…。知られざる小乗仏教の実態をみずみずしい感性で紡いだドキュメント。

東京・中日新聞 2022/01/08

2021:8./ 337p
978-4-7917-7405-0
¥2,420 [税込]





武器としてのヒップホップ

ダースレイダー 著
幻冬舎

ヒップホップは音楽のみならず、生き方、在り方を提示してきた。博学の現役ラッパーが、28のキーワードを軸に、逆境の乗り越え方、隙間をつく思考、日常の目の付け所を伝授する。

東京・中日新聞 2022/01/09

2021:12./ 199p
978-4-344-03885-1

¥1,540〔税込〕



聖子〜新宿の文壇 BAR「風紋」の女主人〜

森 まゆみ 著
亜紀書房

アナキストの画家の娘として生まれ、太宰治の「メリイクリスマス」のモデルとなり、生き抜くためにバーを切り盛りする。文学者、思想家、映画人、どんな人をも受け入れる酒場は、戦後文学史を支えた…。林聖子の93年の記録。

東京・中日新聞 2022/01/09

2021:10./ 301p
978-4-7505-1709-4

¥1,980〔税込〕



発達障害という才能(SB新書 560)

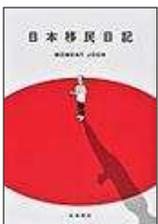
岩波 明 著
S Bクリエイティブ

発達障害の特性は、時代の変革期に必要とされる能力と一致している。発達障害の特性を持つ起業家や芸術家を紹介し、彼らの才能がどのように開花して、そのために何が必要だったかを明らかにする。ヤマザキマリとの対談も収録。

東京・中日新聞 2022/01/09

2021:11./ 270p
978-4-8156-0703-6

¥990〔税込〕



日本移民日記

MOMENT JOON 著
岩波書店

2010年から日本に住む韓国出身の「移民者」ラッパーが、自身の成長と変化と共に、日本社会の風景を率直に綴る。WEBマガジン『たねをまく』連載に加筆修正し、『図書』掲載の「僕らの孤独の住所は日本」を加え単行本化。

東京・中日新聞 2022/01/09、日本経済新聞 2022/01/15

2021:11./ 7p,190p
978-4-00-061504-4

¥1,870〔税込〕



アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か?〜これからの経済と女性の話〜

カトリーン・マルサル 著
河出書房新社

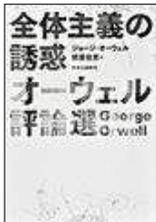
アダム・スミスが研究中、身の周りの世話をしたのは誰? 女性の家庭内労働は経済の世界から排除され、価値のないものとされてきた。男性中心の経済学に対抗するフェミニスト経済学の考え方をベースに、既存の経済学を斬る。

東京・中日新聞 2022/01/15、朝日新聞 2022/01/15、毎日新聞 2022/01/15

2021:11./ 284p
978-4-309-30016-0

¥2,310〔税込〕





全体主義の誘惑～オーウェル評論選～

ジョージ・オーウェル 著

中央公論新社

世界の政治状況が大きく変化中、アクチュアリティを増しているジョージ・オーウェルの批評。「書評:ヒトラー著「我が闘争」」「ナショナリズムについての覚書」「政治と英語」など、オーウェルの評論9篇を収録する。

東京・中日新聞 2022/01/15、東京・中日新聞 2022/01/23

2021:11./ 205p
978-4-12-005480-8

¥2,200〔税込〕



ばらまき～河井夫妻大規模買収事件全記録～

中国新聞「決別金権政治」取材班 著

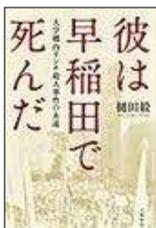
集英社

100人に2871万円。政治家夫婦が自ら現金を配って回った前代未聞の大規模買収事件。誰が主導したのか。事件は政界に何を残したのか。地元紙・中国新聞が、総力を挙げて取材した執念のノンフィクション。

東京・中日新聞 2022/01/16

2021:12./ 309p
978-4-08-781713-3

¥1,760〔税込〕



彼は早稲田で死んだ～大学構内リンチ殺人事件の永遠～

樋田 毅 著

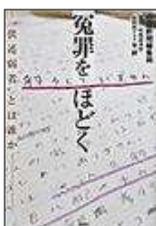
文藝春秋

1972年、早稲田大学構内で1人の学生が虐殺された。その事件をきっかけに蜂起した一般学生の「自由」獲得への闘い。その時、キャンパスでは何が起きていたのか。渦中で理不尽な暴力と対峙し続けた著者による渾身のルポ。

東京・中日新聞 2022/01/16

2021:11./ 261p
978-4-16-391445-9

¥1,980〔税込〕



冤罪をほどく～“供述弱者”とは誰か～

中日新聞編集局／秦融 著

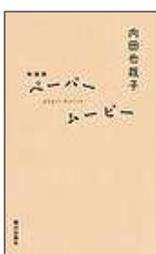
風媒社

獄中で無実を訴え、12年間書き続けた350余通の手紙。<供述弱者>を再審無実へと導いた調査報道は、いかにして可能となったか。再審事件の実情や「司法の闇」に迫る。ウェブ『フォースジャパン』連載を加筆し書籍化。

東京・中日新聞 2022/01/23

2021:12./ 312p
978-4-8331-1144-7

¥1,980〔税込〕



ペーパームービー 新装版

内田也哉子 著

朝日出版社

命が輝いているほんの束の間に出会い、過ごし、共に分かち合えるのは、この世の軌跡なのかもしれない。19歳の内田也哉子が描いた、ハゲシイ両親樹木希林・内田裕也、そして運命のひと本木雅弘との日々。

東京・中日新聞 2022/01/29

2021:11./ 173p
978-4-255-01254-4

¥1,386〔税込〕





月夜の森の梟

小池真理子 著

朝日新聞出版

作家夫婦は病と死に向きあい、どのように過ごしたのか。残された著者は、過去の記憶の不意うちに苦しみ、その後を生き抜く。心の底から生きることを励ます喪失エッセイ。『朝日新聞』連載を単行本化。

東京・中日新聞 2022/01/29、読売新聞 2022/01/30

2021:11./ 172p
978-4-02-251800-2

¥1,320〔税込〕



ひとりでカラカサさしてゆく

江國 香織 著

新潮社

大晦日の夜、ホテルに集まった80歳過ぎの3人の男女。酒を飲み、共に過ごした過去を懐かしみ、そして一緒に命を絶った。残された者たちの日常を通して浮かびあがるのは…。『小説新潮』連載を書籍化。

東京・中日新聞 2022/01/30

2021:12./ 230p
978-4-10-380811-4

¥1,760〔税込〕



台湾対抗文化紀行

神田桂一 著

晶文社

周辺諸国の文化をうまく取り入れて、自己主張とゆるさが絶妙なバランスで共存する島、台湾。そんな台湾に魅せられたフリーライターが、現在進行形の台湾カルチャーを案内しながら、これからの時代の生き方や働き方を考える。

東京・中日新聞 2022/01/30

2021:11./ 169p
978-4-7949-7286-6

¥1,870〔税込〕



消えた球団 1950年の西日本パイレーツ

塩田芳久 著

ビジネス社

「プロ野球史上初の完全試合を食らったチーム」としてのみ名前が残る悲劇の球団「西日本パイレーツ」。その軌跡をたどりながら、エピソード豊かな球団の真実に迫る。『西日本新聞』福岡県版連載を大幅加筆し書籍化。

東京・中日新聞 2022/01/30

2021:11./ 239p
978-4-8284-2348-7

¥1,760〔税込〕



漂砂のうた(集英社文庫 き18-3)

木内 昇 著

集英社

御一新から10年。武士という身分を失い、根津遊廓の美仙楼で客引きとなった定九郎。凜とした佇まいを崩さない人気花魁、小野菊…。変わりゆく時代に翻弄されながら、それぞれの「自由」を追い求める男と女の人間模様を描く。

読売新聞 2022/01/09

2013:11./ 331p
978-4-08-745130-6

¥682〔税込〕





榎挽道守(集英社文庫 き 18-4)

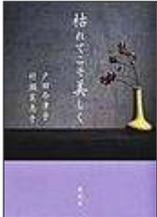
木内 昇 著
集英社

幕末の木曾山中。神業と呼ばれるほどの腕を持つ父に憧れ、榎挽職人を目指す登瀨。しかし年頃になれば嫁ぐのが当たり前の時代。世間は珍妙なものを見るように登瀨の一家と接し…。深く静かな感動が広がる長編時代小説。

読売新聞 2022/01/09

2016:11./ 419p
978-4-08-745513-7

¥792〔税込〕



枯れてこそ美しく

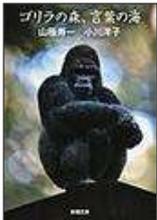
戸田 奈津子／村瀬 実恵子 著
集英社

少女時代や学生時代のユーモラスなエピソード、ファッション談議、元祖キャリア・ウーマンとしての苦労と仕事における功績、人生に対する心構え、終活…。人生の達人ふたりによるスペシャル・トーク。

読売新聞 2022/01/09

2021:11./ 190p
978-4-08-781706-5

¥1,430〔税込〕



ゴリラの森、言葉の海(新潮文庫 や-74-2)

山極 寿一／小川 洋子 著
新潮社

物語の森を知る作家・小川洋子とゴリラの眼を持つ霊長類学者・山極寿一が、京都で、屋久島で語り尽くす。ゴリラを通して現代に生きるヒトの姿が鮮やかに浮かび上がる、知のフィールドワーク。

読売新聞 2022/01/09

2021:11./ 291p
978-4-10-126592-6

¥649〔税込〕



ドイツ・ナショナリズム〜「普遍」対「固有」の二千年史〜(中公新書 2666)

今野 元 著
中央公論新社

欧州で主導権を握るドイツ。だが、「普遍」的価値観に照らした「正しさ」を他国にも求める姿勢に対して、英仏など周辺国からの反撥は根強い。二千年にわたる歴史を繙き、ドイツはいかにして「ドイツ」になったのかをさぐる。

読売新聞 2022/01/09

2021:10./ 7p,336p
978-4-12-102666-8

¥1,056〔税込〕



マルクス・ガブリエル 危機の時代を語る(NHK 出版新書 635)

丸山 俊一、NHK 「欲望の時代の哲学」制作班 著
NHK出版

いま目撃しているのは新自由主義の終焉。 「新實在論」を掲げる思想界の旗手ガブリエルが、知の最前線5人と白熱の対談。コロナ危機に際してのインタビューも収録する。NHK番組「欲望の時代の哲学 2020」を新書化。

読売新聞 2022/01/09

2020:9./ 220p
978-4-14-088635-9

¥880〔税込〕





モンテレッジオ小さな村の旅する本屋の物語(文春文庫 う 30-3)

内田 洋子 著
文藝春秋

イタリアの権威ある書店賞発祥の地がなぜ、トスカーナの山奥にあるのか？ 舞台となった山深きモンテレッジオ村に居を構え取材した著者による歴史ノン・フィクション。

読売新聞 2022/01/09

2021:11./ 330p
978-4-16-791787-6

¥935〔税込〕



見えない都市(河出文庫)

I.カルヴィーノ 著
河出書房新社

空想都市の奇妙な報告を描く幻想小説の極致

読売新聞 2022/01/09

2003:7./ 240p
978-4-309-46229-5

¥935〔税込〕



平場の月(光文社文庫 あ 53-5)

朝倉かすみ 著
光文社

病院の売店で再会した、元男子の青砥と元女子の須藤。50年生きてきた男と女には、老いた家族や過去もあり…。心のすき間を埋めるような感情のうねりを、求めあう熱情を、生きる哀しみをしみじみと描く、大人の恋愛小説。

読売新聞 2022/01/09

2021:11./ 312p
978-4-334-79265-7

¥748〔税込〕



フィリア-今道子

朝木由香 編
高橋睦郎／中森康文／水沢勉／柿沼裕朋 著
国書刊行会

魚や果物、靴や帽子などを組み合わせてオブジェを制作、自邸の自然光で撮影して幻想的な作品世界を創造する写真家・今道子。初期代表作から2020年の作品までを収録。2021年開催の展覧会に際して刊行された写真集。

読売新聞 2022/01/09

2021:11./ 5p,191p
978-4-336-07265-8

¥4,180〔税込〕



帝国の計画とファシズム～革新官僚、満洲国と戦時下の日本国家～

ジャニス・ミムラ 著
人文書院

軍事化する日本において、岸信介、星野直樹ら革新官僚による満洲国の建設は日本に何をもたらしたのか。戦後にまで影響を及ぼした日本ファシズムの実態を多角的に分析する。

読売新聞 2022/01/09

2021:12./ 315p
978-4-409-52084-0

¥4,950〔税込〕





地方メディアの逆襲(ちくま新書 1623)

松本 創 著
筑摩書房

現場にこだわり、時間をかける取材で見えるものとは？ 地方紙、地方局の記者やディレクター、報道幹部を訪ね、地方からジャーナリズムを問い直す。『Web ちくま』連載を書籍化。

読売新聞 2022/01/09

2021:12./ 266p
978-4-480-07445-4

¥946〔税込〕



ディープフェイク

福田 和代 著
P H P 研究所

仕組まれたネット炎上。身に覚えのない容疑で追い詰められる恐怖…。仕事も名声も家族も、全てを失った教師は、自らの尊厳をかけて、真相究明に挑み…。サスペンス小説。『WEB 文蔵』連載を加筆し書籍化。

読売新聞 2022/01/09

2021:10./ 349p
978-4-569-85040-5

¥1,980〔税込〕



スピッツ論～「分裂」するポップ・ミュージック～

伏見瞬 著
イースト・プレス

なぜ彼らは誰からも愛されるのか？ ポップでマニアック、優しくて恐ろしく、爽やかにエロティックな稀代のバンド「スピッツ」の魅力を「分裂」というキーワードから解き明かす。また彼らの歴史についても記述する。

読売新聞 2022/01/09

2021:12./ 277p
978-4-7816-2035-0

¥1,870〔税込〕



「歴史の黄昏」の彼方へ～危機の文明史観～

野田 宣雄 著
千倉書房

黄昏を迎えた世界で、危機の“その先”を如何に見通すか。歴史家、宗教者、教育者、野田宣雄。その全著作から、「歴史」「教養」「政治」「宗教」を切り口に、重要論考、単行本未収録作品を集成する。解題も掲載。

読売新聞 2022/01/09

2021:11./ 5p,512p
978-4-8051-1240-3

¥6,160〔税込〕



国家をもたぬよう社会は努めてきた～クラストルは語る～

ピエール・クラストル 著
洛北出版

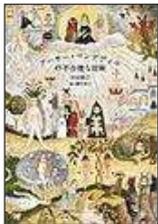
「国家なき社会」は、なぜ「国家なき社会」なのか。それは、その社会が「国家に抗する社会」だからである。人類学者ピエール・クラストルへのインタビューを通し、彼の著作が人文社会科学全般にもたらしたインパクトを紹介。

読売新聞 2022/01/09

2021:10./ 267p
978-4-903127-32-3

¥2,860〔税込〕





アーサー・マンデヴィルの不合理な冒険

宮田珠己 著
大福書林

教皇の命により、怪異うごめく東方世界に旅立った一行。しかしその情報源は父の遺したデタラメ旅行記だった。待ち受けるのは、羊のなる謎の木や、魚に乗るアマゾネス、犬頭人にマンドラゴラ…。折り込みのイラストあり。

読売新聞 2022/01/09

2021:10./ 367p
978-4-908465-16-1

¥2,750〔税込〕



アスベストス

佐伯 一麦 著
文藝春秋

長い時間をかけて迫りくる「静かな時限爆弾」によって奪われた平穏な人生。自身も患者である著者が現場を歩いて綴った、アスベスト(石綿)がテーマの連作小説。「せき」など全4編を収録。『文學界』掲載を単行本化。

読売新聞 2022/01/09、毎日新聞 2022/01/15、日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 142p
978-4-16-391479-4

¥1,980〔税込〕



室町社会史論～中世的世界の自律性～

清水 克行 著
岩波書店

各社会集団が自律的な「法」をもって対峙する多元性を特徴としていた室町期の社会。その実像と、そこに生きた中世人の心性を、「習俗」への着目を通して解き明かすとともに、続く戦国期・近世への展望をも示す論文集。

読売新聞 2022/01/16

2021:10./
11p,346p,6p
978-4-00-002235-4

¥6,490〔税込〕



いとまの雪～新説忠臣蔵・ひとりの家老の生涯～<上>

伊集院 静 著
KADOKAWA

大坂夏の陣から70年。家老・大石良雄は、赤穂藩主・浅野内匠頭の清らかな心に惹かれながらも、危うさを感じ取り…。日本史上最も有名な復讐劇を独自の視点で描く。『京都新聞』ほか掲載を加筆し単行本化。

読売新聞 2022/01/16

2020:12./ 252p
978-4-04-108428-1

¥1,870〔税込〕



いとまの雪～新説忠臣蔵・ひとりの家老の生涯～<下>

伊集院 静 著
KADOKAWA

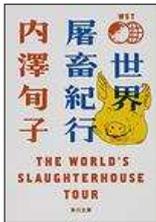
江戸城・松の廊下で刀傷沙汰を起こし、即日切腹の裁定が下された赤穂藩主・浅野内匠頭。復讐の時を待つ家老・大石良雄。その黒幕は…。日本史上最も有名な復讐劇を独自の視点で描く。『京都新聞』ほか掲載を加筆し単行本化。

読売新聞 2022/01/16

2020:12./ 292p
978-4-04-111018-8

¥1,870〔税込〕





世界屠畜紀行(角川文庫 う 22-1)

内澤 旬子 著

角川グループパブリッシング

「食べるために動物を殺すことを可哀相と思ったり、屠畜に従事する人を残酷と感じるのは、日本だけなの？」 アメリカ、インド、エジプト、チェコ、モンゴル、バリ、韓国、東京、沖縄。世界の屠畜現場を徹底取材!!

読売新聞 2022/01/16

2011:5./ 478p
978-4-04-394395-1

¥968〔税込〕



受け月(講談社文庫)

伊集院 静 著

講談社

短編の名手のワザが冴える直木賞受賞作。 永年率いた社会人野球の名門チームからの引退を、自ら育てた後輩に告げられた老監督、亡くなった夫の好きだった野球を始めた息子がベンチで試合を見つめる姿に複雑な思いを抱く若い母親、母と自分を捨てて家を出た父親との再会を躊躇(ためら)う男……。誰にも訪れる切ない瞬間によぎる思いを描いた、直木賞受賞作。 伊集院さんの作品が語る「野球」の魅力に私は感動しています。プレーする人も、それを観る人も、ともにその喜びや感動を共有できる「野球」のすばらしさを、伊集院さんが作品を通して後々まで伝える伝道師となってください。——(長嶋茂雄)

読売新聞 2022/01/16

2007:3./ 312p
978-4-06-275665-5

¥607〔税込〕



機関車先生 新装版(講談社文庫 い 63-28)

伊集院 静 著

講談社

瀬戸内にある葉名島の全校生徒7人の小学校に、臨時の先生がやってくる。体が大きく、やさしいまなざしの先生は幼少期の病気が原因で口がきけなかった。青年教師と生徒たちとの心の交流を描いた涙と感動の名作。

読売新聞 2022/01/16

2021:5./ 267p
978-4-06-523176-0

¥737〔税込〕



ミチクサ先生<上>

伊集院 静 著

講談社

夏目家の「恥かきっ子」金之助は、父親にガラクタ扱いされながらも、学校では異例の飛び級で頭角をあらわす。東京大学予備門に合格した金之助は、正岡子規と出会い…。夏目漱石の青春を描く。『日本経済新聞』連載を書籍化。

読売新聞 2022/01/16

2021:11./ 301p
978-4-06-525722-7

¥1,870〔税込〕





ミチクサ先生<下>

伊集院 静 著
講談社

英語教師として赴任した熊本で鏡子を迎え、新婚生活を始めた金之助。英国留学の後、帝国大学の教師になり、高浜虚子の依頼で書いた「吾輩は猫である」が大評判となり…。夏目漱石の青春を描く。『日本経済新聞』連載を書籍化。

読売新聞 2022/01/16

2021:11./ 291p
978-4-06-525743-2
¥1,870〔税込〕



透明な夜の香り

千早 茜 著
集英社

古い洋館でひっそりと営まれる、秘密のサロン。天才調香師・小川朔を訪ねて、謎を秘めた依頼人たちが集まり-。香りをめぐるドラマチックな長編小説。『小説すばる』連載を単行本化。

読売新聞 2022/01/16

2020:4./ 248p
978-4-08-771703-7
¥1,650〔税込〕



ノースライト(新潮文庫 よ-28-3)

横山 秀夫 著
新潮社

一級建築士の青瀬が設計した新築の家。しかし、Y邸に越してきたはずの家族の姿はなく、一脚の「タウトの椅子」だけが浅間山を望むように残されていた。Y邸で何が起きたのか？ 一家の行方は…。

読売新聞 2022/01/16

2021:12./ 546p
978-4-10-131673-4
¥935〔税込〕



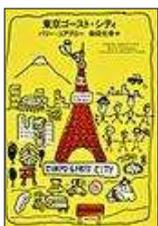
還れぬ家

佐伯 一麦 著
新潮社

高校生のとき親に反発して家を出た光二だが、認知症となった父の介護に迫られ、家とも向き合わざるをえなくなる。そして東日本大震災が起こり…。喪われた家をテーマにした長編小説。『新潮』連載を単行本化。

読売新聞 2022/01/16

2013:2./ 441p
978-4-10-381405-4
¥2,530〔税込〕



東京ゴースト・シティ

バリー・ユアグロー 著
新潮社

コロナ禍とオリンピックで大揺れに揺れる東京を訪れた米国人作家夫婦が会ったのは、ニッポンが誇る文化的英雄の幽霊たち。陽気な彼らは、どこへ導こうとしているのか？ 『波』連載に書き下ろしを加え書籍化。

読売新聞 2022/01/16

2021:9./ 248p
978-4-10-533405-5
¥2,420〔税込〕





火星の人～映画「オデッセイ」原作～<上> 新版(ハヤカワ文庫 SF 2043)

アンディ・ウィアー 著

早川書房

有人火星探査のクルーであるマークは、予期せぬ事故で一人、火星に取り残された。だが希望を捨てず、限られた食料・物資、自らの技術・知識を駆使して生き延びていく。2016年2月公開映画「オデッセイ」の原作。

読売新聞 2022/01/16

2015:12./ 319p
978-4-15-012043-6

¥704〔税込〕



火星の人～映画「オデッセイ」原作～<下> 新版(ハヤカワ文庫 SF 2044)

アンディ・ウィアー 著

早川書房

探査隊が到着する4年後まで生き延びるため、マークは火星で食物を栽培すべく対策を編みだしていく。一方、彼の生存を確認したNASAは国家を挙げてのプロジェクトを発動し…。2016年2月公開映画「オデッセイ」の原作。

読売新聞 2022/01/16

2015:12./ 312p
978-4-15-012044-3

¥704〔税込〕



プロジェクト・ヘイル・メアリー<上>

アンディ・ウィアー 著

早川書房

たった1人で目を覚ましたグレース。ここは宇宙船。ペトロヴァ問題と呼ばれる災禍によって太陽エネルギーが減少し、存亡の危機に瀕した人類は「プロジェクト・ヘイル・メアリー」を発動。遠い宇宙へ恒星間宇宙船を放ち…。

読売新聞 2022/01/16

2021:12./ 323p
978-4-15-210070-2

¥1,980〔税込〕



プロジェクト・ヘイル・メアリー<下>

アンディ・ウィアー 著

早川書房

「プロジェクト・ヘイル・メアリー」の目的は、太陽エネルギーを食べる未知の地球外生命体アストロファージに感染していないタウ・セチに赴き、その理由を探し出すこと。グレースはこの不可能ミッションに挑むことに…。

読売新聞 2022/01/16

2021:12./ 315p
978-4-15-210071-9

¥1,980〔税込〕



歴史探偵 開戦から終戦まで(文春新書 1344)

半藤 一利 著

文藝春秋

歴史を愛し、誰よりも愉しんだ半藤一利による未収録エッセイ集第3弾。太平洋戦争下の日米両海軍の軍人をリーダーシップの観点から分析するとともに、ヒトラーとは何者なのかを考察。戦中?戦後の大相撲の思い出などもつづる。

読売新聞 2022/01/16

2021:12./ 231p
978-4-16-661344-1

¥924〔税込〕





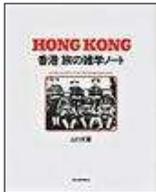
水平線(文春文庫 さ 56-1)

桜木 紫乃 著
文藝春秋

真っ白に海が凍るオホーツク沿岸の町で、静かに再会した男と女の凄烈な愛を描いた表題作、酪農の地を継ぐ者たちの悲しみと希望を牧草匂う交歓の裏に映し出した「雪虫」など、全6編を収録。

読売新聞 2022/01/16

2012:4./ 262p
978-4-16-783601-6
¥682〔税込〕



香港旅の雑学ノート～出街/街坊/享受～ 復刻

山口 文憲 著
河出書房新社

ネオンサイン、看板、もの売り、屋台…。ユニオンジャックはためく返還前の街の姿を、徹底的に観察・分析・図解した伝説の香港マニュアルを復刊。角田光代によるスペシャルエッセイも収録する。

読売新聞 2022/01/16

2021:12./ 222p
978-4-309-03018-0
¥2,002〔税込〕



脳科学者の母が、認知症になる～記憶を失うと、その人は“その人”でなくなるのか?～(河出文庫 お 43-1)

恩蔵 絢子 著
河出書房新社

母親がアルツハイマー型認知症だと診断された脳科学者が、記憶を失っていく母親の日常生活を2年半にわたって記録。認知症が「その人らしさ」に与える影響について考察する。

読売新聞 2022/01/16

2021:12./ 231p
978-4-309-41858-2
¥759〔税込〕



ナルニア国物語<1> 魔術師のおい(光文社古典新訳文庫 KA ル 1-1)

C.S.ルイス、土屋 京子 著
光文社

魔法の指輪で異世界に迷い込んだディゴリーとポリーは、悪の女王を誤ってロンドンに連れ帰ってしまう。女王を元の世界に戻そうと入り込んだのは、一頭のライオンが創造しようとしていた別の国で…。ナルニア最初の冒険を描く。

読売新聞 2022/01/16

2016:9./ 325p
978-4-334-75340-5
¥748〔税込〕



正しい愛と理想の息子(光文社文庫 て 3-2)

寺地はるな 著
光文社

32歳の長谷真と、30歳の沖遼太郎。コンビを組む2人は違法カジノで働いていたが、失敗ばかり。偽宝石売りでも無一文になるが、商店街にたむろする老人たちを見て、今度は老人を騙すことを思いつき…。

読売新聞 2022/01/16

2021:11./ 253p
978-4-334-79268-8
¥704〔税込〕





ゴーストランド～幽霊のいるアメリカ史～

コリン・ディッキー 著
国書刊行会

アメリカ各地に残る幽霊話には、この国の忘れたい過去、人々の根源的な不安が潜んでいる。17世紀セーラムの魔女裁判からハリケーン・カトリーナまで、各地の幽霊話の調査分析を通して「幽霊の国アメリカ」の深層を探る。

読売新聞 2022/01/16

2021:11./
346p,24p,17p
978-4-336-07185-9
¥3,960〔税込〕



頭山満～アジア主義者の実像～(ちくま新書 1608)

嵯峨 隆 著
筑摩書房

戦前、多方面に政治的影響力をもったアジア主義者・頭山満。彼の生涯を辿りなおし、アジアとの連帯感と侵略志向とがいかなる形で彼の中で併存していたかをアジア主義との関連で読み解きつつ、近代日本のアジア観を問いなおす。

読売新聞 2022/01/16

2021:10./ 254p
978-4-480-07433-1
¥924〔税込〕



第8監房(ちくま文庫 し 54-1)

日下 三蔵 編
柴田 錬三郎 著
筑摩書房

剣豪小説の大家として知られる柴田錬三郎は、現代もののミステリも多数残した。表題作を筆頭に、主に1950年代に発表され、現在は入手困難な短篇を収めたオリジナル作品集。日下三蔵による詳細な解説も併録。

読売新聞 2022/01/16

2022:1./ 369p
978-4-480-43785-3
¥924〔税込〕



庭仕事の真髄～古い・病・トラウマ・孤独を癒す庭～

スー・スチュアート・スミス 著
築地書館

世界的ガーデン・デザイナーを夫に持つ精神科医がガーデニングにめざめ、自然と庭と人間の精神のつながりに気づいていき…。心理学・神経科学等の最新知見や様々な実例、著者の個人的体験をもとに、庭仕事の深層を描き出す。

読売新聞 2022/01/16

2021:11./ 368p,30p
978-4-8067-1626-6
¥3,520〔税込〕



文豪と印影

西川 清史 著
左右社

印影ヲ知ラズシテ文豪ヲ語ルナカレ。かつて本に押されていた「検印」。現在は失われた風習を文豪たちのエピソードとともに振り返る。130人の作家と170の印影を収め、秘蔵写真も多数掲載。

読売新聞 2022/01/16

2021:12./ 157p
978-4-86528-062-3
¥2,420〔税込〕





東大夢教授

遠藤 秀紀 著
リトル・モア

あるときは動物園の獣舎でサイの皮を?ぎ、またあるときは研究室で独りカップ?を啜る。動物の死体から新たな知を生み出す遺体科学者が、自らの学者生活をもとに書き上げた、21世紀の東大教授奮闘記。

読売新聞 2022/01/16

2011:7./ 435p
978-4-89815-314-7

¥2,090 [税込]



くらしのアナキズム

松村圭一郎 著
ミシマ社

国家は何のためにあるのか? ほんとうに必要なのか? 「国家なき社会」は、希望と可能性を孕んでいる。よりよく生きるきっかけとなる<問い>と<技法>を、人類学の視点からさぐる画期的論考。

読売新聞 2022/01/16

2021:9./ 237p
978-4-909394-57-6

¥1,980 [税込]



人口戦略法案~人口減少を止める方策はあるのか~

山崎 史郎 著
日本経済新聞出版社

コロナ禍で出生数の急減が進む。我々は手をこまねき、「小国」になっていくのか。日本再起を目指す者たちの戦略と苦悩を通じ、人口減少問題の現状と解決策を小説スタイルで描く。

読売新聞 2022/01/16、日本経済新聞 2022/01/22

2021:11./ 557p
978-4-532-17710-2

¥2,640 [税込]



芭蕉の風景<上>(澤俳句叢書 第30篇)

小澤實 著
ウェッジ

故郷・伊賀上野から出た芭蕉は江戸で自らの俳諧を確立。そして「野ざらし紀行」の旅へ…。芭蕉の吟行をなぞり、その句について考える。俳人・小澤實のライフワーク。自作句も収録。『ひととき』等連載を加筆・修正。

読売新聞 2022/01/16、毎日新聞 2022/01/22

2021:10./ 309p
978-4-86310-242-2

¥3,300 [税込]



芭蕉の風景<下>(澤俳句叢書 第30篇)

小澤實 著
ウェッジ

いよいよ円熟する芭蕉の俳諧。旅もクライマックスの「おくのほそ道」から終焉の地・大阪へ…。芭蕉の吟行をなぞり、その句について考える。俳人・小澤實のライフワーク。自作句も収録。『ひととき』等連載を加筆・修正。

読売新聞 2022/01/16、毎日新聞 2022/01/22

2021:10./
370p,58p,7p
978-4-86310-243-9

¥3,300 [税込]





マイケル・K(岩波文庫 32-803-1)

J.M.クツェー 著
岩波書店

内戦の続く南アフリカ。マイケルは手押し車に病気の母親を乗せて、騒乱のケープタウンから内陸の農場をめざす…。国家の運命に翻弄されながら、どこまでも自由に生きようとする個人のすがたを描く。

読売新聞 2022/01/23

2015.4./ 311p
978-4-00-328031-7

¥924〔税込〕



* 9 7 8 4 0 0 3 2 8 0 3 1 7 *



東シナ海～漁民たちの国境紛争～(角川新書 K-377)

佐々木 貴文 著
KADOKAWA

尖閣諸島水域を中心に東シナ海の漁業操業は中国、台湾に席卷されてまもなく、人材もインドネシア人に依存している。なぜそうなったのか。漁業から見える日中台の国境紛争の歴史と現実を報告する。

読売新聞 2022/01/23

2021.12./ 250p
978-4-04-082373-7

¥990〔税込〕



* 9 7 8 4 0 4 0 8 2 3 7 3 7 *



辞表～高杉良傑作短編集～(新潮文庫 た-52-29)

高杉 良 著
新潮社

病魔に倒れた社長の後継人事に奔走する男の秘策「社長の遺志」、社内抗争に巻き込まれた男と同期の友情「エリート」の反乱」など全5編を収録。己れの矜持を賭けた決断の瞬間を、経済小説の巨匠が鮮烈に描いた短編集。

読売新聞 2022/01/23

2021.12./ 327p
978-4-10-130338-3

¥693〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 1 3 0 3 3 8 3 *



平成のヒット曲(新潮新書 929)

柴 那典 著
新潮社

平成とはどんな時代だったのか。1989年の美空ひばり「川の流れるように」から、2018年の米津玄師「Lemon」まで、30のヒット曲を分析。それらの曲が社会に何をもたらしたかを読み解き、時代の実像に迫る。

読売新聞 2022/01/23

2021.11./ 303p
978-4-10-610929-4

¥946〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 6 1 0 9 2 9 4 *



辛酸なめ子の独断!流行大全(中公新書ラクレ 747)

辛酸 なめ子 著
中央公論新社

「アイス・バケツ・チャレンジ」「うんこ漢字ドリル」「ぴえん」…。経済、社会風俗から、科学、芸能まで、2014?2022年の時事ワード250語を辛酸なめ子が分析する。『読売新聞』夕刊掲載のコラムを単行本化。

読売新聞 2022/01/23

2021.12./ 510p
978-4-12-150747-1

¥1,320〔税込〕



* 9 7 8 4 1 2 1 5 0 7 4 7 1 *



なぜ、脱成長なのか～分断・格差・気候変動を乗り越える～

ヨルゴス・カリス／スーザン・ポールソン／ジャコモ・ダリサ／フェデリコ・デマリア 著

NHK出版

資本主義の矛盾と限界を解決する経済社会ビジョンとして注目される「脱成長」。欧米で脱成長論を推進する旗手が、ベーシックサービスや commons の復権など、脱成長を実現するための具体的なプランを示す。

読売新聞 2022/01/23

2021:4./ 217p
978-4-14-081855-8

¥1,540〔税込〕



孤独の宰相～菅義偉とは何者だったのか～

柳沢 高志 著

文藝春秋

いったい、どこで何を誤ったのか。「岸田は総理に相応しくない」と漏らしていた菅義偉は、なぜその岸田に負けたのか。安倍・麻生との確執から、河野・小泉との関係まで、担当記者が菅義偉の実像を綴る。

読売新聞 2022/01/23

2021:12./ 286p
978-4-16-391480-0

¥1,760〔税込〕



生物としての静物

開高 健 著

河出書房新社

亜熱帯の戦場からアラスカ、南米のアマゾン、そして深夜の書斎まで。小説家と共に旅を続けてきたライター、パイプ、万年筆、ナイフ…。精選して使い込んだ小さな物たちを通して旅と冒険の記憶を綴った、エッセイ集。

読売新聞 2022/01/23

2022:1./ 189p 図版
12p

978-4-309-03020-3

¥2,112〔税込〕



鉄の時代(河出文庫 ク 14-1)

J・M・クッツェー 著

河出書房新社

末期ガンの痛みにも耐えながら生きる 70 歳のミセス・カレン。ある日ホームレスとの奇妙な交流が始まる。彼女は最愛の娘への最期の手紙をその男に託す。暴力で分断された<鉄の時代>にノーベル賞作家が愛と恥と真実を問う。

読売新聞 2022/01/23

2020:5./ 329p
978-4-309-46718-4

¥1,320〔税込〕



狩りの季節(光文社文庫 異形コレクション い 31-42 52)

光文社

<狩り>をテーマにした<異形コレクション>オリジナル・アンソロジー。井上雅彦「赤いシニン」、久美沙織「夜の祈り」、霧島ケイ「七人御先」、平山夢明「ゲルニカ 2050」など全 15 篇を収録。

読売新聞 2022/01/23

2021:11./ 601p
978-4-334-79271-8

¥1,100〔税込〕





J・M・クッツェーと真実

くぼた のぞみ 著
白水社

ノーベル文学賞作家J・M・クッツェーの翻訳を手がけてきた著者が、作品の奥に埋め込まれた「真実」を解き明かし、作家の実像に迫る。年譜・全著作リストも収録。

読売新聞 2022/01/23

2021:10./ 327p
978-4-560-09868-4

¥2,970〔税込〕



J・M・クッツェー少年時代の写真

ハーマン・ウィッテンバーグ 編
J・M・クッツェー 著
白水社

アパルトヘイトが強化されていく1950年代、作家・クッツェー自身がケープタウンのカレッジ時代(12歳?16歳頃)に撮影した貴重な写真131点とその分析を収録。クッツェーのインタビューも掲載。

読売新聞 2022/01/23

2021:10./ 197p
978-4-560-09869-1

¥3,740〔税込〕



2034 米中戦争(二見文庫 ザ・ミステリ・コレクション ア13-1)

エリオット・アッカーマン/ジェイムズ・スタヴリディス 著
二見書房

2034年3月南シナ海で、米海軍が作戦中に船籍不明のトロール船に遭遇。同じころホルムズ海峡でF-35がイランに不時着しパイロットが捕虜に。中国は捕虜の解放と引き換えにトロール船の返還を要求するが...

読売新聞 2022/01/23

2021:12./ 485p
978-4-576-21122-0

¥1,430〔税込〕



時間をめぐる哲学の冒険～ゼノンのパラドクスからタイムトラベルまで～

エイドリアン・バードン 著
ミネルヴァ書房

ゼノンのパラドクスから、相対論、タイムトラベル、宇宙のはじまりと終わりまで。時間をめぐる新旧様々なトピックを、広い視野から体系的に読み解く。「時間とは何か」という不朽のテーマを哲学的に考えるための入門書。

読売新聞 2022/01/23

2021:11./
11p,249p,6p
978-4-623-09257-4

¥3,520〔税込〕



ジャガー自伝～みんな元気かぁ?い?～

ジャガー 著
イースト・プレス

衣装もスタジオも住居も自ら作り、音楽も録音もライブもCD制作もPVもTV番組も、すべてDIYでやっていた男の人生は、千葉の戦後史そのものだった。何よりも千葉を愛し、誰よりも千葉に愛された男の自伝。

読売新聞 2022/01/23

2021:12./ 300p
978-4-7816-2029-9

¥1,540〔税込〕





21世紀の道徳～学問、功利主義、ジェンダー、幸福を考える～(犀の教室)

ベンジャミン・クリッツァー 著

晶文社

倫理学、哲学と進化論から導かれる“良き生き方”とは。進化心理学などの知見を参照しながら「これからの道徳」を論じ、現在流行っている特定のタイプの道徳論に対して古典的な思想家たちの議論を交えて批判を行なう。

読売新聞 2022/01/23

2021:12./ 406p
978-4-7949-7283-5

¥1,980〔税込〕



* 9 7 8 4 7 9 4 9 7 2 8 3 5 *



デンデケ・アンコール～ロックを再び見出し、ロックに再び見出された者たちの物語～

芦原すなお 著

作品社

「これから先の人生で、どんなことがあるのかわからないけれど、いとしい歌の数々よ、どうぞぼくを守りたまえ!」当時18歳のちっくんの祈りは、たしかに聞き届けられた。歌に支えられ、守られたちっくんの半世紀を語る。

読売新聞 2022/01/23

2021:10./ 399p
978-4-86182-869-0

¥2,970〔税込〕



* 9 7 8 4 8 6 1 8 2 8 6 9 0 *



私のいない部屋

レベッカ・ソルニット、東辻賢治郎 著

左右社

父のDVから逃れるようにサンフランシスコに住み、安宿で生活の糧を得、女に向けられる好奇と暴力をくぐり抜けた。“マンスプレイング”を世に広めた新時代のフェミニズムを代表する作家ソルニットの歩んだストーリー。

読売新聞 2022/01/23

2021:10./ 301p
978-4-86528-046-3

¥2,640〔税込〕



* 9 7 8 4 8 6 5 2 8 0 4 6 3 *



説教したがる男たち

レベッカ・ソルニット、ハーン小路恭子 著

左右社

相手が女性と見るや講釈を垂れたがる男たちが、どこにでもいること自体が、女性たちが強いられている沈黙、世界の圧倒的な不正そのものだ。女性たちの口をつぐませ、ときに死に追いやる暴力の構造をあばき出す。

読売新聞 2022/01/23

2018:9./ 205p
978-4-86528-208-5

¥2,640〔税込〕



* 9 7 8 4 8 6 5 2 8 2 0 8 5 *



北海道の縄文文化こころと暮らし

「北海道の縄文文化 こころと暮らし」刊行会 著

亜璃西社

北海道の縄文時代に迫るビジュアルブック。「つくる」「すまう」「かる・とる・たべる」「よそおう」などのテーマ別に、カラー写真をふんだんに交えて各地の遺跡と遺物から縄文人の“こころと暮らし”を読み解く。

読売新聞 2022/01/23

2021:12./ 294p,5p
978-4-906740-50-5

¥3,960〔税込〕



* 9 7 8 4 9 0 6 7 4 0 5 0 5 *



会社法は誰のためにあるのか～人間復興の会社法理～

上村 達男 著
岩波書店

「会社は株主のもの」「株主価値の最大化こそ経営の目的」といった命題を自明視し、巨大ファンドが市場に君臨することに何の疑念も抱かない会社法学の通説は誤っている。「株式会社とは何か」を根本から問い直す。

読売新聞 2022/01/30

2021.12./ 13p,262p
978-4-00-061509-9

¥3,190〔税込〕



愛について～アイデンティティと欲望の政治学～(岩波現代文庫 学術 441)

竹村 和子 著
岩波書店

セクシュアリティをはじめとし、私的領域の深奥に秘匿されてきた事柄を鋭く分析。境界を攪乱し、「語りえぬもの」に声を与える政治と倫理の新たな地平を切り拓く。精緻な理論でフェミニズム批評を牽引しつづけた著者の代表作。

読売新聞 2022/01/30

2021.12./ 6p,418p,5p
978-4-00-600441-5

¥1,782〔税込〕



私が食べた本(朝日文庫 む 14-3)

村田沙耶香 著
朝日新聞出版

小さなころ怖かった古典、過去の嫉妬を思い出す小説、何度も買った作家指南書、そして自身の著書について…。芥川賞作家がデビューから今まで書き続けた「本」にまつわるエッセイをまとめる。

読売新聞 2022/01/30

2021.12./ 271p
978-4-02-265024-5

¥759〔税込〕



短歌ください(角川文庫 ほ 21-1)

穂村 弘 著
KADOKAWA

恋愛、眠り、地名、暴力、トイレ、日本…。『ダ・ヴィンチ』の読者投稿コーナーに寄せられた短歌から、人気歌人・穂村弘がテーマごとに傑作を選出。それぞれの短歌に鮮やかな講評を付す。

読売新聞 2022/01/30

2014.6./ 262p
978-4-04-102604-5

¥616〔税込〕



もしもし、運命の人ですか。(角川文庫 ほ 21-2)

穂村 弘 著
KADOKAWA

黙々と働く昼も、ひとりで菓子パンをかじる夜も、考えるのは恋のこと。あのときああ言っていたら…今度はこうしよう…延々とシミュレートし続けた果てに、<私の天使>は現れるのか？ 気鋭の歌人による恋愛エッセイ集。

読売新聞 2022/01/30

2017.1./ 205p
978-4-04-102624-3

¥616〔税込〕





蚊がいる(角川文庫 ほ 21-3)

穂村 弘 著

KADOKAWA

日常の中で感じる他者との感覚のズレ、居心地の悪さと不安…。なぜ、僕はあのとき何も云えなかったのだろう。自称“ふわふわ人間”の著者が違和感と内気について綴ったエッセイ集。又吉直樹との対談も収録。

読売新聞 2022/01/30

2017:2./ 268p
978-4-04-102625-0

¥660〔税込〕



* 9 7 8 4 0 4 1 0 2 6 2 5 0 *



高丘親王航海記<2>(BEAM COMIX)

近藤 ようこ/澁澤 龍彦 著

KADOKAWA

貞観七年、高丘親王は唐の広州から占城、真臘、盤盤国を経て、天竺へと向かう。人の上半身に鳥の下半身を持つ女たち。良い夢を食すると芳香を放つ糞を出す猫。蜜人。犬頭人の国。夢と憧れ、怪奇と幻想のアラベスク。幻想文学史上に屹立する巨峰を、果敢なる漫画家が端正で妖しく描き尽くす。渾身のコミカライズ。 ●近藤ようこ ビームコミックス好評既刊●『墓の血』（原作：田中貢太郎）『死者の書』上・下巻（原作：折口信夫）『五色の舟』（原作：津原泰水）『帰る場所』『水の蛇』『月影の御母』『美しの首』『猫の草子』『説経 小栗判官』『宝の嫁』『女神たちと』（共著：河井克夫他） ●コミックビーム 公式ツイッター●@COMIC_BEAM

読売新聞 2022/01/30

2020:9./ 209p
978-4-04-736226-0

¥880〔税込〕



* 9 7 8 4 0 4 7 3 6 2 2 6 0 *



高丘親王航海記<3>(BEAM COMIX)

近藤 ようこ/澁澤 龍彦 著

KADOKAWA

蜜人空海との再会 洞窟で翼を広げる少女との邂逅 鏡の自分に憑りつかれた国王との謁見 真珠採りの男たちとの遭遇 既知と未知、怪奇と幻想のアラベスク。幻想文学史上に屹立する巨峰を、果敢なる漫画家が端正で妖しく描き尽くす。渾身のコミカライズ、第三巻。 ●近藤ようこ ビームコミックス好評既刊●『墓の血』（原作：田中貢太郎）『死者の書』上・下巻（原作：折口信夫）『五色の舟』（原作：津原泰水）『帰る場所』『水の蛇』『月影の御母』『美しの首』『猫の草子』『説経 小栗判官』『宝の嫁』『女神たちと』（共著：河井克夫他） ●コミックビーム 公式ツイッター●@COMIC_BEAM

読売新聞 2022/01/30

2021:4./ 207p
978-4-04-736607-7

¥880〔税込〕



* 9 7 8 4 0 4 7 3 6 6 0 7 7 *



高丘親王航海記<4>(BEAM COMIX)

近藤 ようこ/澁澤 龍彦 著

KADOKAWA

フリースタイル“THE BEST MANGA 2021 このマンガを読め!”第1位 美しくも不吉なる真珠とともに、天竺を目指す親王一行、生と死が織りなす夢幻に溢れた、遥かなる旅が今、終わる。 澁澤龍彦の遺作にして、日本文学史に屹立する傑作へ挑み、絶賛の嵐を呼んだ完全コミカライズ、万感の最終巻。 ●近藤ようこ ビームコミックス好評既刊●『墓の血』(原作:田中貢太郎)『死者の書』上・下巻(原作:折口信夫)『五色の舟』(原作:津原泰水)『帰る場所』『水の蛇』『月影の御母』『美しの首』『猫の草子』『説経 小栗判官』『宝の嫁』『女神たちと』(共著:河井克夫他) ●コミックビーム 公式ツイッター●@COMIC_BEAM

読売新聞 2022/01/30

2021:10./ 206p
978-4-04-736813-2

¥880〔税込〕



水中翼船炎上中

穂村 弘 著

講談社

全員がアトムとウランの髪型の入学式よ光るはなびら 真夜中のスマートフォンに囁いている基地からの距離を知るため 子ども時代、昭和の終焉、母の死、そして現在...。 328首を収めた17年ぶり、4冊目の個人歌集。

読売新聞 2022/01/30

2018:5./ 202p
978-4-06-221056-0

¥2,530〔税込〕



シンジケート 新装版

穂村 弘 著

講談社

「風の夜初めて火をみる猫の目の君がかぶりを振る十二月」 水滴が雪になるようにことばが結晶化して歌になる。そんなピカピカの恋を詠んだ、現代短歌を代表する穂村弘のデビュー歌集。本体は背表紙なし糸綴じ。

読売新聞 2022/01/30

2021:5./ 139p
978-4-06-523212-5

¥2,530〔税込〕



おおあんごう

加賀 翔 著

講談社

岡山の田舎の小さな町。細いゴリラのような父に振り回され、繊細な心を削られて生きるぼく。凜とした母、ふんわりしたおばあちゃん、無二の親友に囲まれて、痛みと悲しみは笑いに変わり、いつか夢を運んできてくれて...

読売新聞 2022/01/30

2021:11./ 174p
978-4-06-526040-1

¥1,540〔税込〕



恋(新潮文庫)

小池 真理子 著

新潮社

読売新聞 2022/01/30

2002:12./ 517p
978-4-10-144016-3

¥880〔税込〕





牧水の恋(文春文庫 た 31-10)

俵 万智 著
文藝春秋

旅と酒の歌人・若山牧水は、恋の歌人でもあった。若き日をささげた恋人の持つ秘密とは。高校時代に牧水の短歌に出会って心から共感した著者が、牧水の恋の絶頂から疑惑、別れまでの秀歌を味わいつくす評伝文学。

読売新聞 2022/01/30

2021:8./ 313p
978-4-16-791741-8
¥858〔税込〕



まばたき(えほんのぼうけん 67)

穂村 弘、酒井 駒子 著
岩崎書店

ちょうちょうが飛ぶとき、鳩時計が12時を告げるとき、猫が動き出すとき、角砂糖が紅茶に溶けるととき、そして少女に呼びかけるとき。時が止まる瞬間を描く美しい絵本。見返しに奥付あり。

読売新聞 2022/01/30

2014:11./ 1冊(ページ
付なし)
978-4-265-08137-0
¥1,430〔税込〕



サラダ記念日～俵万智歌集～

俵 万智 著
河出書房新社

「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日 スパゲティの最後の一本食べようとしているあなた見ている私 20歳のおわりから24歳までの430余首を収めた第1歌集。

読売新聞 2022/01/30

2016:7./ 190p
978-4-309-02488-2
¥1,122〔税込〕



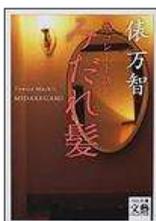
かぜのてのひら～俵万智歌集～

俵 万智 著
河出書房新社

待つという香辛料をふりかけてほうれん草のグラタンを焼く よく笑う女生徒なりしが吾に見えぬ何かを抱えて退学の朝 恋、そして4年間教師をした高校の教え子たちとの別れ。24?28歳の470余首を収めた第2歌集。

読売新聞 2022/01/30

2017:6./ 221p
978-4-309-02582-7
¥1,430〔税込〕



みだれ髪～チョコレート語訳～(河出文庫)

俵 万智、与謝野 晶子 著
河出書房新社

読売新聞 2022/01/30

2002:7./ 189p
978-4-309-40655-8
¥660〔税込〕





最後の参謀総長梅津美治郎(祥伝社新書 647)

岩井 秀一郎 著
祥伝社

昭和天皇に終戦を決意させたと言われる参謀総長・梅津美治郎。陸軍の後始末ばかりさせられた男の“最後の後始末”である、ポツダム宣言および降伏文書調印に至る終戦への道をたどり、昭和陸軍と昭和史に新たな光をあてる。

読売新聞 2022/01/30

2021:12./ 257p
978-4-396-11647-7
¥990〔税込〕



ゴドーを待ちながら(白水 U ブックス 183)

サミュエル・ベケット 著
白水社

田舎道。1本の木。夕暮れ。エストラゴンとヴラジーミルという2人組のホームレスが、救済者ゴドーを待ちながら、ひまつぶしに興じている。そこにやってきたのは...。不条理演劇の代名詞でもあるベケットの傑作戯曲。

読売新聞 2022/01/30

2013:6./ 227p
978-4-560-07183-0
¥1,320〔税込〕



ギリシア悲劇ノート

丹下 和彦 著
白水社

機械仕掛けの神とは何か？ 舞台に出られる俳優は3人だけ？ 作家の不幸な人生が傑作を生み出したのか？ ギリシア悲劇のシナリオに隠れた魅力を紹介する。

読売新聞 2022/01/30

2009:10./ 262,2p
978-4-560-08028-3
¥2,640〔税込〕



私たち異者は

スティーヴン・ミルハウザー、柴田 元幸 著
白水社

<異者>となった私と2人の女性との奇妙な交流を描く表題作をはじめ、通りすがりの男がいきなり平手打ちを食わせてくる事件が続発する「平手打ち」など、驚異の世界を緻密に描き、リアル現出せしめる蠱惑的な全7篇を収録。

読売新聞 2022/01/30

2019:6./ 244p
978-4-560-09710-6
¥2,860〔税込〕



夜の声

スティーヴン・ミルハウザー 著
白水社

緻密な筆致、驚異の想像力で壮大な夜に広がる物語集。夜中に自分の名前を呼ぶ声を聞いた旧約聖書の少年の物語を軸に、声を待ちわびる者たちの心のうちをたどる表題作をはじめ、「妻と泥棒」「近日開店」など全8編を収録。

読売新聞 2022/01/30

2021:11./ 219p
978-4-560-09873-8
¥2,750〔税込〕





破綻の戦略～私のアフガニスタン現代史～

高橋 博史 著
白水社

ソ連のアフガニスタン侵攻前夜から、ターリバーンとアル・カーイダの出現、中村哲医師との親交に至るまで、現地の人びとと膝をつき合わせてきた元駐アフガニスタン大使による異色のドキュメント。

読売新聞 2022/01/30

2021.12./ 235p
978-4-560-09876-9

¥2,090〔税込〕



鳥肌が(PHP 文芸文庫 ほ 2-1)

穂村 弘 著
PHP 研究所

日常の中でふと覚える違和感、現実の中に時折そっと顔を覗かせる「ズレ」、自分が信用できなくなる瞬間…。恐怖と笑いが紙一重で同居するエッセイ集。

読売新聞 2022/01/30

2019.7./ 261p
978-4-569-76943-1

¥770〔税込〕



モデルナはなぜ3日でワクチンをつくれたのか(インターナショナル新書 089)

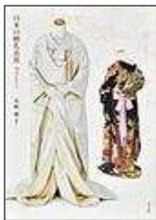
田中 道昭 著
集英社インターナショナル

徹底したDXによって、年単位だったワクチン開発のスピードを飛躍的に高めたモデルナ。テクノロジー企業分析の第一人者が、モデルナの革新性を説き、ヘルスケア産業のプラットフォーム制覇を狙う企業を分析する。

読売新聞 2022/01/30

2021.12./ 254p
978-4-7976-8089-8

¥968〔税込〕



日本の婚礼衣裳～寿ぎのきもの～

長崎巖 著
東京美術

花嫁をはじめその婚礼に関わる女性たちが着用した衣裳を「婚礼衣裳」と定義し、江戸時代から昭和初期に至る女性の婚礼衣裳の変遷をたどる。袱紗、子どもの衣服も取り上げる。そごう美術館他で開催の展覧会の公式図録。

読売新聞 2022/01/30

2021.10./ 185p,6p
978-4-8087-1230-3

¥2,500〔税込〕



ラドゥ・ルプーは語らない。～沈黙のピアニストをたどる20の素描～

板垣 千佳子 編
アルテスパブリッシング

“1000人に1人のリリシスト”と讃えられながら、インタビューも録音も拒んで引退したピアニスト、ラドゥ・ルプー。親交のあった演奏家、マネージャー、調律師らが彼のひとと音楽について語る。

読売新聞 2022/01/30

2021.11./ 208p,10p
図版 12p

978-4-86559-245-0

¥2,640〔税込〕





みゃーこ湯のトタンくん

スケラッコ 著
ミシマ社

ネコの街の銭湯「みゃーこ湯」のネコの店主トタンと、街で唯一の人間・ハラさん、ネコのお客たちの銭湯での日々をコミックで描く。見返しにイラストあり。『みんなのミシマガジン』連載に加筆修正し書き下ろしを加え書籍化。

読売新聞 2022/01/30

2021:12./ 157p
978-4-909394-61-3

¥1,650〔税込〕



自分をつめる禅問答(角川ソフィア文庫 SP H-109-1)

南 直哉 著
角川学芸出版

生きる意味はあらかじめ存在しない。生きる中から作られるのだ——。人気のカリスマ禅僧・南直哉が、誰もが一度はぶつかる根源的な問いに、「禅問答」のスタイルで回答。人間の真理にせまる画期的な書。

日本経済新聞 2022/01/08

2011:12./ 270p
978-4-04-408902-3

¥748〔税込〕



恐山～死者のいる場所～(新潮新書 464)

南 直哉 著
新潮社

日本一有名な霊場・恐山は、生者が死者を想うという、人類普遍の感情によって支えられてきた。恐山は、死者への想いを預かり、魂のゆくえを決める場所なのだ。無常を生きる人々へ、「恐山の禅僧」が弔いの意義を問う。

日本経済新聞 2022/01/08

2012:4./ 207p
978-4-10-610464-0

¥814〔税込〕



サウジアラビア～「イスラーム世界の盟主」の正体～(中公新書 2670)

高尾 賢一郎 著
中央公論新社

中東の新興国・サウジアラビアはいかにして「イスラーム世界の盟主」に上りつめたのか。宗教・経済・女性問題は克服できるのか。イスラームの国家観と西洋近代の価値観の狭間で変革に向かう、大国の実像を描き出す。

日本経済新聞 2022/01/08

2021:11./ 7p,203p
978-4-12-102670-5

¥902〔税込〕



役に立つ古典(教養・文化シリーズ NHK 出版学びのきほん)

安田 登 著
NHK出版

ふだんの生活にはまったく役に立たない古典は、大人になり人生の深い問題にぶち当たったときに突然、その真価を発揮する。「古事記」「論語」「おくのほそ道」「中庸」を取り上げ、能楽師がその要点を解説する。

日本経済新聞 2022/01/08

2019:6./ 115p
978-4-14-407245-1

¥737〔税込〕





お経で読む仏教(教養・文化シリーズ NHK 出版学びのきほん)

釈 徹宗 著

NHK出版

ブツダの教えからお経のエッセンスまで、仏教が一望できる入門書。仏教の歴史に沿って「スッタニパータ」「涅槃経」「阿弥陀経」など5つのお経を取り上げ、著者が惹かれた部分を中心に紹介する。

日本経済新聞 2022/01/08

2020:12./ 125p
978-4-14-407261-1

¥737〔税込〕



ヌマヌマ〜はまったら抜けだせない現代ロシア小説傑作選〜

ミハイル・シーシキン 著

河出書房新社

英雄ガガーリンの母が<地球の心臓部>に突き進む「空のかなたの坊や」、謎の作家が体験する鏡の中の世界を描く「トロヤの空の眺め」…。ユニークかつオリジナルな12編を収録した、現代ロシア小説のアンソロジー。

日本経済新聞 2022/01/08

2021:10./ 339p
978-4-309-20840-4

¥3,520〔税込〕



産業革命史〜イノベーションに見る国際秩序の変遷〜(ちくま新書 1609)

郭 四志 著

筑摩書房

イノベーションこそが、世界秩序形成の原動力である。産業革命を4段階に分けて世界経済の変遷を辿り、経済体系の変遷や社会経済発展・分業との関係など多様な論点を交え、持続的な世界経済の運動としての産業革命を描き出す。

日本経済新聞 2022/01/08

2021:10./ 398p
978-4-480-07434-8

¥1,265〔税込〕



だから殺せなかった(創元推理文庫 M い 13-1)

一本木 透 著

東京創元社

「おれは首都圏連続殺人事件の真犯人だ」 大手新聞社の社会部記者宛てに届いた一通の手紙を契機にして、新聞記者と連続殺人犯の“紙上戦”が始まる…。劇場型犯罪と報道の行方を緻密に描くミステリ。WOWOW ドラマの原作。

日本経済新聞 2022/01/08

2021:11./ 316p
978-4-488-45021-2

¥792〔税込〕



カーボンニュートラルの経済学〜2050年への戦略と予測〜

小林 光/岩田 一政/日本経済研究センター 著

日本経済新聞出版社

企業のDXこそが温暖化問題解決の鍵を握る!DXを加速することで生産性の向上、脱炭素を実現する変革の道を描き、実行可能な炭素税案など、脱エネ・脱資源に必要な戦略を明確に提言する。

日本経済新聞 2022/01/08

2021:11./ 260p
978-4-532-35904-1

¥2,640〔税込〕





猫に学ぶ～いかに良く生きるか～

ジョン・グレイ 著
みすず書房

幸福を追い求める人間に対して、猫は何を教えてくれるのか。何世紀にもわたる哲学や、コレット、ハイスミス、谷崎らの小説を渉猟し、人間が猫にどう反応し行動するかを定めてきた複雑で親密なつながりを探究する。

日本経済新聞 2022/01/08

2021:11./ 176p
978-4-622-09049-6
¥3,300〔税込〕



観音像とは何か～平和モニュメントの近・現代～

君島 彩子 著
青弓社

興亜、戦争死者慰霊、ランドマーク、地域振興…。時代ごとに性格を変えながらも、平和の象徴として共通認識されることで、モニュメントとして独自の発展を遂げた観音像の近・現代史を描き出す。

日本経済新聞 2022/01/08

2021:10./ 234p
978-4-7872-1056-2
¥2,640〔税込〕



生きていること～動く、知る、記述する～

ティム・インゴルド、柴田 崇、野中 哲士、佐古 仁志、原島 大輔、青山 慶、柳澤 田実 著
左右社

人類が生きていることを取り戻すために。絶えず展開する一群の関係のなかで創造的に成長する特異な結節点である人間。芸術や建築といった領域も含めて、生を肯定する人類学を考察する。21世紀最初の10年間の小論を集成。

日本経済新聞 2022/01/08

2021:11./ 571p,30p
978-4-86528-037-1
¥4,950〔税込〕



ライズ～線の文化史～

ティム・インゴルド、工藤 晋 著
左右社

歩くこと、織ること、歌うこと、書くこと。それらはすべて何らかのラインに沿って進行している。発話と歌の区別、地図づくりと知の方法、さかさまの木…。線という観点からすべてを見直し考え直す、線についての比較人類学。

日本経済新聞 2022/01/08

2014:6./ 267p,8p
978-4-86528-101-9
¥3,025〔税込〕



メイキング～人類学・考古学・芸術・建築～

ティム・インゴルド、金子 遊、水野 友美子、小林 耕二 著
左右社

人類学と考古学、芸術、建築を、世界を探究する技術として捉えなおしたら、どんな風景が広がるのか。石器を試作し、浜辺を歩き、1体の彫像を1週間観察する、そんな授業を続けてきたインゴルドによる、文化人類学の冒険の書。

日本経済新聞 2022/01/08

2017:9./ 304p,25p
978-4-86528-179-8
¥3,410〔税込〕





三流のすすめ

安田登 著
ミシマ社

三流=多流(いろいろなことができる人)。一人ひとりの可能性を最大限に大切にする三流の人の生き方を、古今東西の書物をひもときながら明らかにする。『MSLive!』のオンライン連続講座をもとに書籍化。

日本経済新聞 2022/01/08

2021:7./ 255p
978-4-909394-54-5

¥1,760〔税込〕



認知症世界の歩き方～認知症のある人の頭の中をのぞいてみたら?～

筧 裕介 著
ライツ社

乗るとだんだん記憶をなくすミステリーバス、距離も方角もわからなくなる二次元銀座商店街…。認知症のある人が経験する出来事を「旅のスケッチ」と「旅行記」の形式にまとめ、だれもが身近に感じるストーリーで紹介する。

日本経済新聞 2022/01/08、朝日新聞 2022/01/15

2021:9./ 264p
978-4-909044-32-7

¥2,090〔税込〕



視覚化する味覚～食を彩る資本主義～(岩波新書 新赤版 1902)

久野 愛 著
岩波書店

なぜ人は、ある特定の色をその食べ物の「自然な(あるべき)」色だと思うのか。食べ物の色に焦点を当て、資本主義の発展とともに色の持つ意味や価値がどのように変化してきたのかを、感覚史研究の実践によりひもとく。

日本経済新聞 2022/01/08、朝日新聞 2022/01/29

2021:11./
17p,204p,7p
978-4-00-431902-3

¥1,034〔税込〕



生を祝う

李琴峰 著
朝日新聞出版

出生前に胎児の意思を確認する「合意出生制度」が法制化された近未来の日本。彩華は、同性婚をしたパートナーとの間に人工妊娠手術で子を宿す。彼女が葛藤しながらくたす決断とは-。『小説トリッパー』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2022/01/08、朝日新聞 2022/01/29

2021:12./ 181p
978-4-02-251803-3

¥1,760〔税込〕



くじ引き民主主義～政治にイノベーションを起こす～(光文社新書 1165)

吉田徹 著
光文社

国民の代表となる人々を「くじ引き」で選んだら? 政策実現までの時間的制約や有権者と議員との格差など、選挙=代表制民主主義の限界と欠点を確認しつつ、「くじ引き民主主義」の可能性と傷ついた民主主義の療法を示す。

日本経済新聞 2022/01/08、東京・中日新聞 2022/01/30

2021:11./ 213p
978-4-334-04572-2

¥858〔税込〕





ぼくはテクノロジーを使わずに生きることにした

マーク・ボイル 著
紀伊國屋書店出版部

「ぼくはお金を使わずに生きることにした」の著者が、電気や化石燃料で動く文明の利器を使わずに、仲間と建てた小屋で自給自足の生活をすることにした。地域の生態系と調和した贈与経済の中で暮らす1年を詩情豊かに綴る。

日本経済新聞 2022/01/08、毎日新聞 2022/01/15

2021:11./ 357p
978-4-314-01187-7

¥2,090 [税込]



戦後日本の中国観～アジアと近代をめぐる葛藤～(中公選書 122)

小野寺 史郎 著
中央公論新社

戦敗や文化大革命は、日本の中国研究にどのような影響をもたらしたか。共産党政権の成立、日中国交樹立、改革開放、天安門事件、反日デモなどをどう論じたのか。戦後の中国近現代史研究の歴史をひもとき、日本の中国観に迫る。

日本経済新聞 2022/01/08、毎日新聞 2022/01/29

2021:11./ 10p,256p
978-4-12-110122-8

¥1,870 [税込]



大人のいじめ(講談社現代新書 2640)

坂倉 昇平 著
講談社

職場のいじめで精神障害を発症した件数が、この11年で10倍に! 職場いじめは、なぜ蔓延するのか。膨大な数の「いじめ・嫌がらせ」相談を受けてきた著者が、実例を紹介しながらその背景を分析する。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:11./ 261p
978-4-06-526094-4

¥990 [税込]



親孝行の日本史～道徳と政治の1400年～(中公新書 2671)

勝又 基 著
中央公論新社

律令で孝行者の表彰が定められ、714年に最古の例が見られる「親孝行」。古代から現代までの日本における親孝行について、「表彰」に注目して豊富な資料を辿り、日本人の家族観や道徳観に迫る。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:11./ 7p,232p
978-4-12-102671-2

¥946 [税込]



親孝行の江戸文化

勝又 基 著
笠間書院

江戸時代、誰もが善と信じて疑わない思想だった「孝」。「孝」がもたらした文化的な側面や、人の動き、書物の動き、思想の動きに着目し、「孝」が持った肯定的な熱気と、そこから生じた多様な現象を明らかにする。

日本経済新聞 2022/01/15

2017:3./ 410p
978-4-305-70839-7

¥7,920 [税込]





<問い>から始めるアート思考(光文社新書 1174)

吉井仁実 著
光文社

「問い」は「答え」より大きな力を持つ。生きることは「問い」の模索である。稀代のアートディレクターと考える、アイデア&イノベーションの育み方。社会に対して「問い」を投げかけること=「アート思考」を得るための本。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:12./ 209p
978-4-334-04581-4

¥902〔税込〕



「日米台連携メカニズム」の構築～台湾・尖閣を守る～

日本安全保障戦略研究所 著
国書刊行会

中国の台湾・尖閣に対する軍事的冒険を抑止できるか。その鍵は日米台の連携強化にある。日本安全保障戦略研究所の研究者がこれまでの研究成果を踏まえ、最新の情報と資料に基づいて、その具体的方策を提示する。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:11./ 470p
978-4-336-07264-1

¥3,300〔税込〕



批評の教室～チョウのように読み、ハチのように書く～(ちくま新書 1600)

北村 紗衣 著
筑摩書房

精読する、分析する、書く。チョウのように軽いフットワークで作品を理解し、ハチのように鋭い視点で読み解くための3つのステップを徹底攻略。作品をたくさんの人と楽しくシェアするための、批評の入門書。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:9./ 238p
978-4-480-07425-6

¥902〔税込〕



the four GAFAs～四騎士が創り変えた世界～

スコット・ギャロウェイ 著
東洋経済新報社

Google、Apple、facebook、amazonの戦略を分析、その強みのもとを中心に創り上げられた「神話」を指摘。彼らが人間の本能をどのように利用しているのかを解説し、次の10年を支配するルールを示す。

日本経済新聞 2022/01/15

2018:7./ 416p,35p
978-4-492-50302-7

¥1,980〔税込〕



ポストコロナの政策構想～医療・財政・社会保障・産業～

小林 慶一郎／佐藤 主光 著
日本経済新聞出版社

このままでは日本は長期衰退に陥る! 2人の経済学者が、コロナ対策のあり方、医療提供体制の短期・中長期の改革、財政と経済の持続性の問題等について、「ガバナンス(統治構造)」と「リスクシェア」をキーワードに考える。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:11./ 349p
978-4-532-35906-5

¥2,750〔税込〕





戦禍のアフガニスタンを犬と歩く

ローリー・スチュワート、高月 園子 著
白水社

タリバン政権崩壊直後の冬のアフガニスタン。英国の元外交官が、戦乱の生々しい爪痕と、かつてあった文明の痕跡をたどり、いまだ混迷から抜け出せずにいる国の姿を描く。

日本経済新聞 2022/01/15

2010:4./ 382p
978-4-560-08062-7
¥3,080〔税込〕



福祉国家～救貧法の時代からポスト工業社会へ～

デイヴィッド・ガーランド 著
白水社

救貧法の時代からポスト工業社会まで、福祉国家の歴史を辿り、その多様な形態を確認。その上で、社会保険・社会扶助・ソーシャルワークといった給付のあり方を分析する。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:8./ 221p,12p
978-4-560-09860-8
¥2,640〔税込〕



第三の支柱～コミュニティ再生の経済学～

ラグラム・ラジャン 著
みすず書房

社会を支える3本の支柱<市場><国家><コミュニティ>。この不均衡への処方箋をコミュニティ再生に見いだした経済学者が、包摂的ローカリズムを提案する。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:7./
32p,480p,38p
978-4-622-08994-0
¥3,960〔税込〕



進化の技法～転用と盗用と争いの40億年～

ニール・シュービン 著
みすず書房

変身するサンショウウオ、頭に肢をもつハエ、気まぐれに変色するトウモロコシ…。科学者達はそこに飛躍的な進化の原動力を見た。40億年の生命史を支えてきた巧妙な進化のからくりを探る。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:10./
8p,266p,36p
978-4-622-09043-4
¥3,520〔税込〕



人、イヌと暮らす～進化、愛情、社会～(教養みらい選書 007)

長谷川 眞理子 著
世界思想社

イヌのそもそもの起源は? どうしてイヌは可愛いのか? 進化生物学者と心理学者の夫婦の家にやってきた3頭のイヌたち。それぞれ個性の違う彼らと一緒に暮らして考えたことをつづる。『せかいしろう』連載を加筆・修正。

日本経済新聞 2022/01/15

2021:11./ 5p,184p
978-4-7907-1763-8
¥1,870〔税込〕





かっこいい福祉

村木 厚子、今中 博之 著

左右社

低賃金、重労働、人手不足…。 「福祉」は何故、低く見られるのか？ 制度と現場を知り尽くした2人の著者が、福祉をかっこいい業界にするにはどうすべきかを縦横無尽に語り合う。

日本経済新聞 2022/01/15

2019:9./ 198p
978-4-86528-246-7
¥1,870〔税込〕



旅の絵日記(中公文庫 わ 25-4)

和田 誠／平野 レミ 著

中央公論新社

平野レミと和田誠が、中学生と小学生の息子と旅に出た。フランス・スペイン・モナコ・イタリアを巡った1989年の夏。旅先の食事、ホテル探しのエピソード、出会った風景と街歩きの小さな発見を日記と絵で綴る。

日本経済新聞 2022/01/15、読売新聞 2022/01/30

2021:12./ 217p
978-4-12-207159-9
¥902〔税込〕



ビルマ危機の本質

タンミンウー 著

河出書房新社

多くの犠牲者を出す混迷のミャンマー情勢。その背景を最も知り尽くした「ミャンマー史」の第一人者が、2000年紀が切り替わる前後の独裁政権最盛期から今日までの15年ほどに焦点を当て、真実を解き明かす。

日本経済新聞 2022/01/15、読売新聞 2022/01/30

2021:10./ 364p
978-4-309-22833-4
¥3,520〔税込〕



村上春樹と魯迅そして中国(早稲田新書 009)

藤井 省三 著

早稲田大学出版部

猫好きの村上春樹の世界を、猫嫌いで小鳥好きの魯迅の世界と照らし合わせることで読み解く試み。現代中国を村上春樹はどのように見ているのか、中国人は村上文学をどのように読んでいるのか、という点も合わせて考える。

日本経済新聞 2022/01/15、読売新聞 2022/01/30

2021:12./ 260p
978-4-657-21019-7
¥990〔税込〕



田辺聖子十八歳の日の記録

田辺 聖子 著

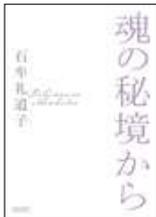
文藝春秋

大空襲、敗戦、父の死、作家への夢…。2021年に発見された、作家・田辺聖子が1945?47年の青春を綴った日記。田辺文学の源泉にして、一級の時代の証言。『文藝春秋』掲載に雑誌未収録の日記、小説等を加え書籍化。

日本経済新聞 2022/01/15、毎日新聞 2022/01/29

2021:12./ 269p
978-4-16-391474-9
¥1,760〔税込〕





魂の秘境から(朝日文庫 い2-3)

石牟礼道子 著
朝日新聞出版

海が汚染されるということは、ご先祖さまの魂のよりどころが破壊されるということであり、わたしたちの魂が還りゆくところを失うということ。水俣・不知火海の風景の記憶と幻視の光景を綴った、著者最晩年の肉声。

日本経済新聞 2022/01/22

2022:1./ 221p
978-4-02-262059-0
¥858〔税込〕



春秋の檻(講談社文庫)

藤沢 周平 著
講談社

藤沢文学を代表する超人気シリーズ！ 江戸小伝馬町の牢獄に勤める青年医師・立花登。居候先の叔父の家で口うるさい叔母と驕慢な娘にこき使われている登は、島送りの船を待つ囚人からの頼みに耳を貸したことから、思わぬ危機に陥った——。起倒流柔術の妙技とあざやかな推理で、獄舎に持ちこまれるさまざまな事件を解く。著者の代表的時代連作集。

日本経済新聞 2022/01/22

2002:12./ 345p
978-4-06-273586-5
¥649〔税込〕



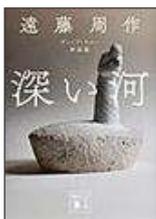
我々はなぜ我々だけなのか～アジアから消えた多様な「人類」たち～(ブルーボックス B-2037)

川端 裕人 著
講談社

我々ホモ・サピエンスの出現前、アジアにいた多様な「人類」はなぜ滅んだのか。我々はなぜ生き残ったのか。アジア人類進化学の第一人者と、彼に導かれ「我々とは何か」を問い続けた著者による人類学の最新成果。

日本経済新聞 2022/01/22

2017:12./ 283p
978-4-06-502037-1
¥1,100〔税込〕



深い河(ディープ・リバー) 新装版(講談社文庫 え1-48)

遠藤 周作 著
講談社

喪失感をそれぞれに抱えインドへと旅をともしにする人々。混沌とした世界で、生きるものすべてを包み込み、母なる河ガンジスは流れていく。本当の愛、生きることの意味を問う、遠藤文学の集大成。

日本経済新聞 2022/01/22

2021:5./ 391p
978-4-06-523448-8
¥858〔税込〕



浮雲 改版(新潮文庫)

林 芙美子 著
新潮社

日本経済新聞 2022/01/22

1968:6./ 382p
978-4-10-106103-0
¥693〔税込〕





楽毅<第1巻>(新潮文庫)

宮城谷 昌光 著
新潮社
日本経済新聞 2022/01/22

2002:3./ 418p
978-4-10-144427-7

¥781〔税込〕



わたしを離さないで(ハヤカワ epi 文庫)

カズオ・イシグロ 著
早川書房

優秀な介護人キャシー・Hは「提供者」と呼ばれる人々の世話をしている。生まれ育った施設ヘルシャムの親友トミーやルースも「提供者」だった。キャシーは施設での奇妙な日々を思いをめぐらす。図画工作に力を入れた授業、毎週の健康診断、保護官と呼ばれる教師たちのぎこちない態度……。彼女の回想はヘルシャムの残酷な真実を明かしていく。

日本経済新聞 2022/01/22

2008:8./ 450p
978-4-15-120051-9

¥880〔税込〕



コロナの時代の僕ら

パオロ・ジョルダーノ 著
早川書房

この災いに立ち向かうために、僕らは何をするべきだったのだろう。何をしてはいけなかったのだろう。そしてこれから、何をしたらよいのだろう。コロナの時代を生きる人々に、イタリア人作家が贈る痛切で誠実なエッセイ集。

日本経済新聞 2022/01/22

2020:4./ 126p
978-4-15-209945-7

¥1,430〔税込〕



天に焦がれて

パオロ・ジョルダーノ 著
早川書房

毎年夏休みを過ごす祖母の家で、14歳のテレザは共同生活を営む3人の少年と出会い、その中のひとり、ベルンと恋に落ちた。だが数年後、その少年が他の少女を妊娠させたと知り…。20年にわたる愛憎と執着の物語。

日本経済新聞 2022/01/22

2021:11./ 583p
978-4-15-210061-0

¥3,190〔税込〕



鬼平犯科帳<1> 決定版(文春文庫 い4-101)

池波 正太郎 著
文藝春秋

斬り捨て御免の権限を持つ幕府の火付盗賊改方の長官・長谷川平蔵。義理と人情とユーモアを心得た江戸のヒーローの活躍を描く。1は、「?の十蔵」「老盗の夢」など全8編を収録。デザインの異なる2種類のジャケット付き。

日本経済新聞 2022/01/22

2016:12./ 372p
978-4-16-790763-1

¥825〔税込〕





ウイスキーアンドシネマ～琥珀色の名脇役たち～

武部 好伸 著
淡交社

すぐ腕のスパイ、人生に疲れた中年男など、映画の登場人物たちに優しく寄り添うウイスキー。ウイスキーが大きな存在感を放っている映画 47 作品について綴る。
『Whisky World』連載を加筆・修正し単行本化。

日本経済新聞 2022/01/22

2014:1./ 215p
978-4-473-03923-1

¥1,650〔税込〕



タイム・スリップ芥川賞～「文学って、なんのため？」と思う人のための日本文学入門～

菊池 良 著
ダイヤモンド社

100 年近く続いている純文学の新人賞「芥川賞」。その歴史とは？ある少年と文学好きな科学者の博士がタイム・マシンに乗って芥川賞の各時代をめぐり、その時代の受賞者や作品などを会話形式で紹介する。

日本経済新聞 2022/01/22

2022:1./ 319p
978-4-478-10916-8

¥1,760〔税込〕



レゴ～競争にも模倣にも負けない世界一ブランドの育て方～

蛭谷 敏 著
ダイヤモンド社

世界一の玩具メーカー「レゴ」の波乱に満ちた経営の軌跡を追いながら、競争力の原点であるレゴの普遍的な価値を発見していくプロセスを具体的に描く。レゴ工場の内部の様子も写真とともに紹介。

日本経済新聞 2022/01/22

2021:11./ 358p 図版
16p

978-4-478-11457-5

¥1,980〔税込〕



西太平洋連合のすすめ～日本の「新しい地政学」～

北岡 伸一 編
東洋経済新報社

「米中対立」時代に日本が生き残る道とは。日本、東南アジア諸国、オーストラリア、ニュージーランド、太平洋島嶼国が緩やかに結びつく西太平洋連合(WPU)構想について、各国と日本の関係、WPU に入る可能性等を論じる。

日本経済新聞 2022/01/22

2021:10./ 480p
978-4-492-44463-4

¥2,860〔税込〕



インパクト投資～社会を良くする資本主義を目指して～

ロナルド・コーエン 著
日本経済新聞出版社

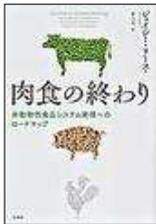
社会的インパクトは、個人と地域社会の幸福を高め、実りある人生を送れるようにし、人々をより良い世界へ導く。資本とイノベーションを利用し、社会・環境問題を解決する新しいシステム「インパクト投資」を創始者が解説する。

日本経済新聞 2022/01/22

2021:12./ 259p
978-4-532-35898-3

¥2,420〔税込〕





肉食の終わり～非動物性食品システム実現へのロードマップ～

ジェイシー・リース 著

原書房

地球環境への多大な負荷、肥満・糖尿病等の要因、劣悪な環境の畜産「工場」...肉食の限界に直面する人類はいま何をすべきか。脱肉食化を社会全体として実現するロードマップを、具体的に示す。

日本経済新聞 2022/01/22

2021:11./ 279p
978-4-562-05968-3

¥2,750〔税込〕



日露戦争史<1>(平凡社ライブラリー 839)

半藤 一利 著

平凡社

日本人はこの戦争を境にどう変わり、今に至ったのか？近代日本に決定的な転機をもたらした日露戦争を詳細に描く。1は、開戦直後までの政府・軍部の攻防と国民の熱狂を綴る。単行本未収録の著者インタビューを追加。

日本経済新聞 2022/01/22

2016:4./ 399p
978-4-582-76839-8

¥990〔税込〕



日露戦争史<2>(平凡社ライブラリー 840)

半藤 一利 著

平凡社

日本人はこの戦争を境にどう変わり、今に至ったのか？近代日本に決定的な転機をもたらした日露戦争を詳細に描く。2は、南山の戦いから旅順要塞陥落までを綴る。単行本未収録の半藤一利×保阪正康の対談を追加。

日本経済新聞 2022/01/22

2016:5./ 427p
978-4-582-76840-4

¥990〔税込〕



日露戦争史<3>(平凡社ライブラリー 842)

半藤 一利 著

平凡社

日本人はこの戦争を境にどう変わり、今に至ったのか？近代日本に決定的な転機をもたらした日露戦争を詳細に描く。3は、日本海海戦から講和条約までを綴る。単行本未収録の半藤一利の講演録を追加。完結。

日本経済新聞 2022/01/22

2016:6./ 455p
978-4-582-76842-8

¥1,012〔税込〕



男子という闇～少年をいかに性暴力から守るか～

エマ・ブラウン 著

明石書店

全米各地で研究者、学校関係者や親子など数百人に聞き取りを行い、男子の性加害・被害実態を調査。男子大学生の22%が入学前に性暴力を振った経験をもつ米国の「男らしさ」の常識に挑み、あるべき性教育を模索する。

日本経済新聞 2022/01/22

2021:11./ 393p
978-4-7503-5281-7

¥2,970〔税込〕





もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら

神田 桂一、菊池 良 著
宝島社

もしも村上春樹がカップ焼きそばの容器にある「作り方」を書いたら-。ツイッターで拡散された文体遊戯をパワーアップ。太宰治、コナン・ドイル、小沢健二など、100人の多彩な文体で「カップ焼きそばの作り方」を綴る。

日本経済新聞 2022/01/22

2017:6./ 190p
978-4-8002-7110-5

¥1,078 [税込]



芥川賞ぜんぶ読む〜84年間 180作品〜

菊池 良 著
宝島社

昭和・平成の84年間の芥川賞180作品をイッキ読みする、教養としての近現代日本文学ガイド。昭和の作品から選んだベスト20も掲載する。Webメディア『Zing!』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

日本経済新聞 2022/01/22

2019:5./ 349p
978-4-8002-9251-3

¥1,650 [税込]



フェイドアウト〜日本に映画を持ち込んだ男、荒木和一〜

東龍造 著
幻戯書房

明治29(1896)年。大阪の心齋橋からニューヨークにやってきた日本人青年は、商談のために発明王エジソンに会い…。ヴァイタスコープ、シネマトグラフなど、映写機を初めて日本に輸入した荒木和一の生涯を描いた小説。

日本経済新聞 2022/01/22

2021:12./ 285p
978-4-86488-236-1

¥1,980 [税込]



愛されている者の生活〜世俗社会に生きる友のために〜

ヘンリ・ナウエン 著
あめんどう

本書は、あるジャーナリストとの長い友情の結果生まれたものである。世俗的な社会に暮らす友から依頼されて、「霊的生活とは何か」という問いにナウエンは応えようとする。個人的な友に宛てて書くことで、聖霊の導きを求めるすべての人に語りかけるメッセージが生まれた。

日本経済新聞 2022/01/22

1999:11./ 167p
978-4-900677-08-1

¥1,760 [税込]



うつりゆく日本語をよむ〜ことばが壊れる前に〜(岩波新書 新赤版 1907)

今野 真二 著
岩波書店

<壊れたことば> からみえる、私たちの現在-。「書きことばと話しことば」「表現の圧縮」「類推」「比喩」などを観点として、できるだけ総合的に日本語の表現をとらえ、現在の日本語がどのような状況にあるかを述べる。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 9p,220p
978-4-00-431907-8

¥946 [税込]





石の肺～僕のアスベスト履歴書～(岩波現代文庫 文芸 327)

佐伯 一麦 著
岩波書店

石綿(アスベスト)による被害は、国家の名のもとに行われた人体実験の結果ではないのか？みずからも後遺症に苦しむ私小説作家が被害の最前線を歩き、「静かな時限爆弾」の実態を、怒りを込めて告発する。

日本経済新聞 2022/01/29

2020:10./ 8p,291p
978-4-00-602327-0

¥1,232 [税込]



* 9 7 8 4 0 0 6 0 2 3 2 7 0 *



黄金旅程～EgonUrrea～

馳 星周 著
集英社

装蹄師の平野敬は、エゴンウレアが超一流の資質を秘めた馬だと確信していた…。人間の手によって生み出された生き物・サラブレッドに未来を託す人々の生きざまをリアルに描く。『小説すばる』連載に加筆・修正。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 413p
978-4-08-771774-7

¥1,980 [税込]



* 9 7 8 4 0 8 7 7 1 7 7 4 7 *



ロシアトヨタ戦記

西谷 公明 著
中央公論新社

トヨタが世界企業へと勇躍した時代、海外進出はいかに行われたか。エコノミストから現地法人社長となった著者が、ロシアにおけるトヨタとその一時代を、バブル崩壊からリーマンショックへいたる時間と空間のなかで描く。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 305p
978-4-12-005484-6

¥2,420 [税込]



* 9 7 8 4 1 2 0 0 5 4 8 4 6 *



ナワリヌイ プーチンがもっとも恐れる男の真実

ヤン・マッティ・ドルバウム／モルヴァン・ラルーエ／ベン・ノーブル 著
NHK出版

政府による毒殺未遂事件、収監…。国際情勢を揺るがすロシア最大の反体制派指導者・ナワリヌイと国家の息詰まる攻防。彼の実像とは？ロシアの奥深い闇と複雑な社会構造、緊迫した国際関係に迫るノンフィクション。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:11./ 350p
978-4-14-081884-8

¥2,530 [税込]



* 9 7 8 4 1 4 0 8 1 8 8 4 8 *



ネイビーシールズ～特殊作戦に捧げた人生～

ウィリアム・H・マクレイヴン 著
早川書房

フセイン捕縛、キャプテン・フィリップス救出、ビン・ラーディン殺害…。米海軍最強のエリート特殊部隊「ネイビーシールズ」。そのトップで指揮を執り、海軍大將まで上りつめた伝説的軍人による回顧録。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:10./ 428p
978-4-15-210057-3

¥3,410 [税込]



* 9 7 8 4 1 5 2 1 0 0 5 7 3 *



贖罪～ナチス副総統ルドルフ・ヘスの戦争～

吉田 喜重 著
文藝春秋

ソ連侵攻を控えた 1941 年 5 月 10 日、ヒトラーの代理人ヘスは、イギリスとの講和工
作のためスコットランドへ。しかしそれを知ったヒトラーは激怒し、チャーチルはと
りあわず…。ナチス副総統ヘスの生涯を描く歴史大作小説。

日本経済新聞 2022/01/29

2020:4./ 349p
978-4-16-391099-4
¥3,300〔税込〕



ケンブリッジ大学・人気哲学者の「不死」の講義～「永遠の命」への本能的欲 求が、人類をどう進化させたのか?～

スティーヴン・ケイヴ 著
日経 B P 社

なぜ人間だけが「死を恐れる」のか。なぜ「病気」や「老化」から逃れるためにあら
ゆる手を尽くすのか。科学はやがて死を克服できるのか。文化・芸術から医学や遺伝
子工学まで最新の知見を編み上げて、人類史の壮大な謎に迫る。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 414p
978-4-296-00052-4
¥2,420〔税込〕



バタフライ・エフェクト～ケンドリック・ラマー伝～

マーカス・J・ムーア 著
河出書房新社

黒人としてアメリカに生きることの怒りと哀しみ、地元への愛情ととまどい、自身を
襲う鬱や葛藤…。アメリカの光と闇を、誰よりも深い次元からえぐり出す最高峰のラ
ッパー、ケンドリック・ラマーの軌跡に迫る本格評伝。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 343p
978-4-309-29171-0
¥3,135〔税込〕



行列のできるインタビュアーの聞く技術～相手の心をほぐすヒント 88～

宮本 恵理子 著
ダイヤモンド社

「あなたに聞いてもらえてよかった」と言われるインタビュアーが、場づくり、声
かけ、相槌など、一瞬で信頼される会話術を伝授する。「新しい話を引き出すための下
調べとは?」といった Q&A も収録。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:10./ 270p
978-4-478-11458-2
¥1,650〔税込〕



その「ひと言」でチームが変わる最高のフィードバック

國武大紀 著
大和書房

上司のフィードバック次第で、部下を勇気づけ、成長させられるかが決まる! 組織心理
学のプロで元外交官が、事例なども取り上げながら、フィードバックの効果を最大化
する 4 つの法則を紹介する。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 287p
978-4-479-79757-9
¥1,760〔税込〕





ヘルシンキ 生活の練習

朴 沙羅 著
筑摩書房

2020年の2月から、私はヘルシンキで仕事をするようになった。2人の小さな子どもと移住した社会学者による、おもしろくてためになる、フィンランドからの現地レポート。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:11./ 275p,5p
978-4-480-81562-0
¥1,980〔税込〕



家(チベ)の歴史を書く

朴 沙羅 著
筑摩書房

「私の家族はいつどのように、どうして済州島から大阪へとやってきたのか。その後どうやって生きてきたのか」 気鋭の社会学者による、家族への親愛と歴史への洞察に満ちた、自身の家(チベ)の記録。

日本経済新聞 2022/01/29

2018:9./ 317p
978-4-480-81848-5
¥1,980〔税込〕



戦争と児童文学

繁内理恵 著
みすず書房

ヒロシマの記憶、内戦と子ども、基地のある日常…。フィクションだからこそ、伝えられる真実がある。子どもたちの小さな声と、ひそやかな記憶に耳をすませる10の児童文学を読み解く。『みすず』連載に加筆・修正し単行本化。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 8p,265p
978-4-622-09066-3
¥3,520〔税込〕



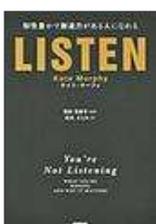
生き物の死にざま(草思社文庫 い5-2)

稲垣 栄洋 著
草思社

生き物たちは、晩年をどう生き、どのようにこの世を去るのか。子に身を捧ぐハサミムシ、海と陸の危険に満ちた一生をおくるウミガメ…。生命の最後の輝きを描く、哀切と感動の29話を収録。生き物イラストも掲載する。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 248p
978-4-7942-2550-4
¥825〔税込〕



LISTEN〜知性豊かで創造力がある人になれる〜

ケイト・マーフィ／篠田 真貴子 著
日経BP社

耳を傾けることは、話すことよりもずっと大切である。カウンセラーから人質交渉人まで、聞くことの重要性を明らかにし、聞く姿勢とスキルを身につけることが多種多様な課題の解決に役立つことなどを解説する。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:8./ 503p
978-4-8222-8900-3
¥2,420〔税込〕





新消費～デジタルが実現する新時代の価値創造～

藤井直毅 著
プレジデント社

アフターDX時代は、人びとの欲望を支配したものが勝者となる! ライブコマース、生鮮EC、無人コンビニ、KOL、MCN…。「超高速社会実験場・中国」で行われているマーケティング新常識を徹底解説する。

日本経済新聞 2022/01/29

2021:10./ 325p
978-4-8334-2430-1

¥2,420〔税込〕



政治学と因果推論～比較から見える政治と社会～(シリーズソーシャル・サイエンス)

松林 哲也 著
岩波書店

政治学分野で重要性を増している因果推論。その基礎を説明するとともに、さまざまな研究例を用いて、無作為化実験、自然実験、不連続回帰デザインなど具体的手法を解説する。研究を始めるにあたって必要最低限な知識も掲載。

毎日新聞 2022/01/08

2021:11./ 9p.206p
978-4-00-026999-5

¥2,200〔税込〕



データサイエンスが解く邪馬台国～北部九州説はゆるがない～(朝日新書 838)

安本美典 著
朝日新聞出版

邪馬台国の所在地は、データサイエンスの手法を使えば、北部九州で決着する。畿内ではありえない理由を、古代鏡や鉄の矢じりなどの発掘地の統計学的分析を駆使しながら、わかりやすく解説する。

毎日新聞 2022/01/08

2021:10./ 289p
978-4-02-295144-1

¥935〔税込〕



教育

遠野 遥 著
河出書房新社

勝てば天国、負ければ地獄の規律と欲望が渦巻く学校。私の幸せは、正しいのか? 芥川賞受賞作家が人間の倫理を問う、ハレンチ×超能力×ディストピア長編。『文藝』掲載を単行本化。

毎日新聞 2022/01/08

2022:1./ 245p
978-4-309-03014-2

¥1,760〔税込〕



税金の世界史

ドミニク・フリスビー 著
河出書房新社

人類がたどってきた道のりを税という観点から浮かびあがらせる。そしてテクノロジーの進歩による著しい社会の変化にいまの税の仕組みが追いついていないことを詳らかにし、これからの税はどうあるべきかを掘り下げる。

毎日新聞 2022/01/08

2021:9./ 318p
978-4-309-22830-3

¥2,585〔税込〕





ドク・ホリディが暗誦するハムレット～オカタケのお気軽ライフ～

岡崎武志 著
春陽堂書店

書評家・古本ライターの岡崎武志が、文学から食、映画、音楽まで、あらゆる時代のあらゆる文化を縦横無尽に語る。春陽堂書店ウェブサイト連載のエッセイ「オカタケな日々」を書籍化。

毎日新聞 2022/01/08

2021:11./ 238p
978-4-394-90409-0

¥1,980〔税込〕



「ひきこもり」から考える～<聴く>から始める支援論～(ちくま新書 1611)

石川 良子 著
筑摩書房

自分とは異なる人生を歩み、異なる価値観を培ってきた相手と、どのように向き合っていけばよいのか。「ひきこもり」支援のあり方について、<聴く>ということに焦点をあてて考察する。『Web ちくま』連載を加筆し書籍化。

毎日新聞 2022/01/08

2021:11./ 194p
978-4-480-07438-6

¥858〔税込〕



本当は違いたし

池田 澄子 著
日本経済新聞出版社

彼の世も小春日和か 此処から彼処の人を思う-。俳人・池田澄子が、3・11 からコロナウイルス禍までの間に綴った、『日本経済新聞』『俳句 α』等掲載の 60 余篇を編んだエッセイ集。

毎日新聞 2022/01/08

2021:12./ 220p
978-4-532-17716-4

¥2,420〔税込〕



女性の死に方(アクションコミックス)

あらいびろよ 著
双葉社

ある日、ふとももが黒くなった女性の遺体が解剖室に運ばれてきた。前日まで元気だったにもかかわらず、急死したようだ。なぜ彼女は亡くなったのか??。美容整形、DV、アルコール依存症、老々介護.....現役法医学者が解剖経験から見た女性の死の背景とは! 「女性の死に方～解剖台から見えてくる「あなたの未来」」コミック版!

毎日新聞 2022/01/08

2021:4./ 128p
978-4-575-94586-7

¥899〔税込〕



がんは裏切る細胞である～進化生物学から治療戦略へ～

アシーナ・アクティピス 著
みすず書房

がんは進化のプロセスそのものである-。進化の視点の基本から説き起こし、協力し合う細胞共同体としての身体の動態や、その中で<裏切り>の生存戦略を選び取るがん細胞の生態を浮かび上がらせる。

毎日新聞 2022/01/08

2021:12./ 256p,42p
978-4-622-09060-1

¥3,520〔税込〕





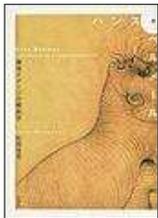
ともだちは海のおい(きみとぼくの本)

工藤 直子 著
理論社

お茶がすきないかと、ビールのすきなくじらが友達になりました。二人は散歩したり読書したりあこがれのパリに出かけたりします。

毎日新聞 2022/01/08

1984:6./ 227p
978-4-652-01222-2
¥1,320〔税込〕



ハンス・ベルメール～身体イメージの解剖学～

松岡佳世 著
水声社

身体イメージを探究し続けたベルメール。初期の人形写真、同時代作家との協働を通じて、制作者も巻き込んだ身体の想像力の問題へと接続する制作・理論の両面を、「交換可能性」という視点から包括的に論じる。

毎日新聞 2022/01/08

2021:11./ 338p
978-4-8010-0606-5
¥4,950〔税込〕



吉井勇の旅靴～昭和初年の歌行脚ノート～

細川光洋 著
短歌研究社

「いのち短し恋せよ乙女(Gondola の唄)」で一世を風靡した伯爵歌人・吉井勇の没後60年を記念した評伝。四十路半ば、家庭の崩壊から旅靴を手に漂泊の人生を余儀なくされた歌人の日々を追う。『短歌研究』連載を加筆、修正。

毎日新聞 2022/01/08

2021:11./ 425p
978-4-86272-633-9
¥5,940〔税込〕



教養としての芥川賞

重里 徹也／助川 幸逸郎 著
青弓社

1935年に創設されて以来、卓抜な新人認知システムとして機能している文学賞「芥川賞」。あまたある受賞作から厳選した23作品について文芸評論家と日本文学研究者が語り合い、小説を深く味わう感性の磨き方を伝える。

毎日新聞 2022/01/08、産経新聞 2022/01/16、朝日新聞 2022/01/22、日本経済新聞 2022/01/22

2021:11./ 352p
978-4-7872-9261-2
¥2,200〔税込〕



南極の氷に何が起きているか～気候変動と氷床の科学～(中公新書 2672)

杉山 慎 著
中央公論新社

日本の面積の約40倍に及ぶ南極氷床が、地球温暖化により急速に失われつつある。急激な海面上昇は現実化するのか。危機を回避するためにすべきことは。氷床研究の第一人者が、謎多き「氷の大陸」の実態を解き明かす。

毎日新聞 2022/01/08、日本経済新聞 2022/01/22

2021:11./ 5p,197p
978-4-12-102672-9
¥946〔税込〕





ヒトの壁(新潮新書 933)

養老 孟司 著
新潮社

新型コロナウイルス禍と五輪、死の淵をのぞいた自身の心筋梗塞、愛猫の死。人生そのものが、不要不急ではないか。それでも生きる価値はどこにあるのか。2年間の体験から改めて問い直す、究極の人間論。

毎日新聞 2022/01/15

2021:12./ 205p
978-4-10-610933-1

¥858〔税込〕



ホモ・ルーデンス 改版(中公文庫 ホ 1-7)

ホイジンガ 著
中央公論新社

人類が遊びとともに発展してきたことを、20世紀最大の文化史家が雄大な構想で示した画期的文化史論。遊びの退廃の危機に立つ現代に冷徹な診断を下す。堀米庸三とマリウス・B・ジャンセンの対談も収録。

毎日新聞 2022/01/15

2019:1./ 531p
978-4-12-206685-4

¥1,320〔税込〕



嫌われた監督〜落合博満は中日をどう変えたのか〜

鈴木 忠平 著
文藝春秋

中日監督時代の8年間、落合博満は勝ち続けながらもなぜ嫌われたのか。異端の将の影響で人生を激変させた12人の男たちの目を通して綴られる、落合博満の実像と中日ドラゴンズ変貌の記録。『週刊文春』連載に加筆修正。

毎日新聞 2022/01/15

2021:9./ 476p
978-4-16-391441-1

¥2,090〔税込〕



野呂邦暢古本屋写真集(ちくま文庫 の 16-2)

岡崎 武志、古本屋ツアー・イン・ジャパン 編
野呂 邦暢 著

筑摩書房

夭折の芥川賞作家・野呂邦暢が密かに撮りためていた古本屋写真。遺族から託されたこの1970年代の貴重な写真をまとめるとともに、野呂邦暢の古本にまつわるエッセイ、編者対談を収録。

毎日新聞 2022/01/15

2021:11./ 201p
978-4-480-43777-8

¥1,100〔税込〕



問題の女〜本荘幽蘭伝〜

平山 亜佐子 著
平凡社

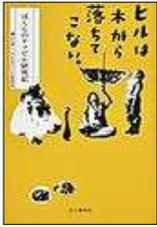
新聞記者、保険外交員、ホテルオーナー、女優、日本語教師、講師…。転職50回以上、50人近い夫と120人以上の交際相手を持ち、アジア各地に神出鬼没。明治・大正・昭和を駆け抜けた女傑、本荘幽蘭の生涯を追う。

毎日新聞 2022/01/15

2021:10./ 342p
978-4-582-83864-0

¥3,080〔税込〕





ヒルは木から落ちてこない。～ぼくらのヤマビル研究記～

樋口 大良、子どもヤマビル研究会 著
山と溪谷社

知らない間に血を吸う嫌われ者のヤマビル。そんなヤマビルの生態研究に挑む小中学生がいた。山でヤマビルの数を数え、ときに自らの血を吸わせて育て、解剖する。彼らが解き明かしてきたヤマビルの生態の数々を紹介する。

毎日新聞 2022/01/15

2021.8./ 303p
978-4-635-06308-1
¥1,430〔税込〕



あいつゲイだって～アウトィングはなぜ問題なのか?～

松岡 宗嗣 著
柏書房

一橋大学アウトィング事件の控訴審判決から1年。ゲイの当事者であり、性的マイノリティに関する情報を発信してきたライターでもある著者が、自身の実体験などをベースに、アウトィングについて考える。

毎日新聞 2022/01/15

2021.11./ 230p
978-4-7601-5427-2
¥1,980〔税込〕



ハイジャック犯をたずねて～スリランカの英雄たち～

和田朋之 著
彩流社

ハイジャック事件で人質となった私は、30年以上たつて犯人を捜し出し、会いに行き、そして交友を続けた。凄惨な民族紛争の歴史と交差する犯人の半生と、スリランカの現代史を炙り出すノンフィクション。

毎日新聞 2022/01/15

2021.9./ 293p
978-4-7791-2762-5
¥2,200〔税込〕



東京の古本屋

橋本倫史 著
本の雑誌社

開発、オリンピック、感染症-。揺れ動く東京で商いを続ける10軒の古本屋に3日間密着し、その仕事と暮らしを記録するルポルタージュ。WEB『本の雑誌』連載を書籍化。

毎日新聞 2022/01/15

2021.10./ 343p 図版
8枚
978-4-86011-462-6
¥2,200〔税込〕



僕は失くした恋しか歌えない

小佐野 弾 著
新潮社

有名企業の経営者一族に生まれ、何不自由ない学生生活を送る「僕」。中学生の頃、性愛の対象が同性であることに気づき…。瑞々しい短歌とともに綴る自伝的青春小説。『yom yom』連載を改題し書き下ろしを加え単行本化。

毎日新聞 2022/01/15、朝日新聞 2022/01/22

2021.11./ 269p
978-4-10-354311-4
¥1,925〔税込〕





詩とは何か(講談社現代新書 2641)

吉増 剛造 著
講談社

現代における「詩」の本質とは何か。詩のほんとうの「しぐさ」とは。現代最高峰の詩人のひとり、吉増剛造が60年の詩業の果てに辿り着いた境地を、縦横無尽に語り尽くす。Q&Aも収録。

毎日新聞 2022/01/22

2021:11./ 315p
978-4-06-518827-9

¥1,210 [税込]



沼の中で不惑を迎えます。～輝くな!アラフォーおっかけレズビアン!～

竹内 佐千子 著
集英社

推しの結婚、お金、介護、老後の不安…。アラフォー・独身・実家暮らしのオタク漫画家が、惑いまくる日々を赤裸々に綴ったコミックエッセイ。サイト『よみタイ』連載に加筆修正し書籍化。

毎日新聞 2022/01/22

2021:9./ 207p
978-4-08-788066-3

¥1,540 [税込]



小林秀雄の「人生」論(NHK 出版新書 665)

浜崎 洋介 著
NHK出版

小林秀雄・入門講義にして真正な日本人論。日本最高の知性と呼ばれた小林秀雄の活動を三期に分け、小林自らの問いである「人生いかに生くべきか」の答えが深化し明確になってゆく過程を、クリアに描き出す。

毎日新聞 2022/01/22

2021:11./ 223p
978-4-14-088665-6

¥968 [税込]



だれでもデザイン～未来をつくる教室～

山中俊治 著
朝日出版社

アイデアのヒントは観察の中に、他人の頭の中に。形にして、共感を集めて、アイデアを育てる。人間と新しい技術の接点を考えつづけてきたデザイナーが、物づくりの根幹とこれからについて、中高生に語る。

毎日新聞 2022/01/22

2021:11./ 356p
978-4-255-01255-1

¥2,090 [税込]



生誕の災厄 新装版

E. M. シオラン 著
紀伊國屋書店出版部

ただひとつの、本物の不運、それはこの世に生まれ出るという不運だ。痛烈なユーモアと皮肉に満ちたアフォリズムで、生への呪詛を発し続けた異端の思想家シオランによる<奇書>の新装版。

毎日新聞 2022/01/22

2021:5./ 329p
978-4-314-01181-5

¥2,750 [税込]





三省堂国語辞典 第8版

見坊 豪紀、市川 孝、飛田 良文、山崎 誠、飯間 浩明、塩田 雄大 編
三省堂

小学校高学年から一般社会人まで、また中級程度以上の日本語学習者の利用を想定し、分かりやすい日常語で「要するにどんな意味か」を説明した国語辞典。新語・新用法を積極的に採用し、8万4千項目を収録。小型版も同時刊行。

毎日新聞 2022/01/22

2021:12./ 16p,1743p
978-4-385-13928-9

¥3,300〔税込〕



絡まり合う生命～人間を超えた人類学～

奥野 克巳 著
亜紀書房

ボルネオの闇夜の森で微睡む人類学者は、自分がアリの世界の一員となったと感じて...。「この世界は人間だけのものではない」という深い実感から出発し、動物、死者、そして生命そのものへと向かう全く新しい人類学の探求。

毎日新聞 2022/01/22

2021:12./ 370p
978-4-7505-1724-7

¥2,200〔税込〕



パラコンシステント・ワールド～次世代通信 IOWN と描く、生命と IT の<あいだ>～

澤田純 著
NTT出版

2つの価値のあいだの矛盾を包摂し、新たな価値を共創するコミュニケーション・インフラとしての IOWN(アイオン)の基本的な考え方・理念を示す。生物学者・福岡伸一、人類学者・山極壽一らとの対談も収録。

毎日新聞 2022/01/22

2021:12./ 2p,271p
978-4-7571-0400-6

¥1,980〔税込〕



「切り札」山下泰裕は日本柔道界を変革できるか

木村秀和 著
本の泉社

長年、日本柔道界を見続けてきたジャーナリストが、変わっていく全日本柔道連盟(全柔連)会長・山下泰裕や、敬して遠ざけられている山口香、山下全柔連が抱えるさまざまな問題について述べ、解決のための提言を示す。

毎日新聞 2022/01/22

2021:12./ 199p
978-4-7807-1830-0

¥1,300〔税込〕



ソ連を崩壊させた男、エリツイン～帝国崩壊からロシア再生への激動史～

下斗米伸夫 著
作品社

20世紀最大の政治運動、体制でもあった共産主義を終わらせたエリツイン。ソ連崩壊後30年の間に現れた歴史史料や同時代人の回想を取り込みつつ、矛盾に満ちた政治家エリツインとロシア再生の苦闘を再構成する。

毎日新聞 2022/01/22

2021:12./ 318p
978-4-86182-880-5

¥2,860〔税込〕





桃花源の幻

格非 著

シャスタインターナショナル

清朝末期。江南の地方村落・普濟の大地主である陸家の一人娘・秀米は、数奇な運命に翻弄され、革命を企て…。桃花の咲き響るユートピアを希求し、波乱の生涯をおくる個性豊かな人々の群像を活写する。

毎日新聞 2022/01/22

2021:11./ 559p
978-4-908184-32-1

¥3,300〔税込〕



火星の歩き方(光文社新書 1172)

白井寛裕、野口里奈、庄司大悟 著

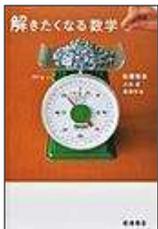
光文社

45億年、手つかずの自然を味わい尽くす旅へ！火星の豊かな地形を、「火星一周」「オリンポス登山」など3つのルートを取り上げて紹介する。地球上にある火星に似た場所、火星の成り立ちと歴史を知るコラムも掲載。

毎日新聞 2022/01/22、日本経済新聞 2022/01/29

2021:12./ 233p
978-4-334-04580-7

¥1,078〔税込〕



解きたくなる数学

佐藤 雅彦／大島 遼／廣瀬 隼也 著

岩波書店

「ピタゴラスイッチ」制作メンバーが作った、論理的思考が身につく数学問題集。

「鳩の巣原理」「三角不等式」「数学的帰納法」などを魅力的な写真とグラフィックで表現した、全23問を収録する。

毎日新聞 2022/01/29

2021:9./ 133p
978-4-00-006339-5

¥1,980〔税込〕



アウシュヴィッツ生還者からあなたへ～14歳、私は生きる道を選んだ～(岩波ブックレット No.1054)

リリアナ・セグレ 著

岩波書店

アウシュヴィッツに送られ、壮絶な日々の末に生きのびた少女は、戦後、30年にわたり自らの体験を語り続けた。90歳を迎え、活動に幕を下ろした年に行った最終講演を、記者によるインタビュー、ルポとともに収録する。

毎日新聞 2022/01/29

2021:11./ 63p
978-4-00-271054-9

¥572〔税込〕



氷点<続下> 改版(角川文庫 み 5-6)

三浦 綾子 著

角川書店

陽子は、大学で実母・恵子の次男・達哉と出会う。以後、達哉は異父姉と知らず、陽子に直情的に近づいてくる。それをきっかけにそれぞれの罪と秘密が明らかになっていく。そして陽子が恵子と顔を合わせる日がやってくる…。

毎日新聞 2022/01/29

2012:7./ 388p
978-4-04-100385-5

¥704〔税込〕





氷点<続上> 改版(角川文庫 み 5-5)

三浦 綾子 著

角川書店

殺人犯の子であるとして自殺を図った陽子は、一命をとりとめる。父・啓造や母・夏枝から謝罪されたが、不倫の末の子であるという事実に苦しみ、実母・恵子への憎しみを募らせる。一方、兄・徹は恵子の苦しみを知り...

毎日新聞 2022/01/29

2012:7./ 365p
978-4-04-100386-2

¥704〔税込〕



哲学する漱石～天と私のあわいを生きる～

長谷川 徹 著

春秋社

漱石を日本近代の一人の思想家として捉え、その哲学思想を探るとともに、日本近代において、それはいかなる意味をもつのかを論じる。「自己本位」から「則天去私」に至る漱石の苦闘とはなにか、日本近代を抉る画期的論考。

毎日新聞 2022/01/29

2021:11./ 4p,518p
978-4-393-33239-9

¥4,620〔税込〕



哲学の蠅

吉村 萬壺 著

創元社

人間存在の根源的な部分を抉り出し、現実への違和感を物語に託して世に放つ異端の小説家・吉村萬壺が、デビュー20年の節目に著す初の自伝的エッセイ。血肉としてきた哲学書を取り上げ、生きることそれ自体の意味を問う。

毎日新聞 2022/01/29

2021:11./ 295p
978-4-422-93090-9

¥2,200〔税込〕



広田弘毅～常に平和主義者だった～(ミネルヴァ日本評伝選)

井上 寿一 著

ミネルヴァ書房

広田弘毅は外交官として欧米局長や駐ソ連大使などを経て、外相や首相を歴任。英米との協調を模索しつつ、中国政策をめぐる対軍部コントロールに苦慮する。東京裁判でA級戦犯として処刑された唯一の文官の生涯に迫る。

毎日新聞 2022/01/29

2021:10./
15p,399p,9p

978-4-623-09268-0

¥3,850〔税込〕



公立学校の外国籍教員～教員の生(ライヴズ)、「法理」という壁～

中島 智子/権 瞳/呉 永鎬/榎井 縁 著

明石書店

日本の公立学校の正規外国籍教員は、「任期の期限を付さない常勤講師」として採用される。授業はできるが、管理職にはなれず、校務の運営には参画できない。外国籍教員の実態を明らかにし、外国籍教員問題を多角的に検討する。

毎日新聞 2022/01/29

2021:11./ 253p
978-4-7503-5227-5

¥2,970〔税込〕





<私>をめぐると対決～独在性を哲学する～(現代哲学ラボ・シリーズ 第2巻)

永井 均、森岡 正博 著
明石書店

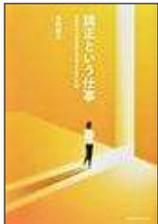
私とは一体何なのか？ 私の特別さはどのように言明できるのか？ この世の最大の謎、<私>をめぐって、オリジナルでスリリングな知的冒険を繰り広げる。連続討論会企画「現代哲学ラボ」の講義を再編集し書籍化。

2021.12./ 3p,311p
978-4-7503-5330-2

¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2022/01/29



矯正という仕事～女性初の法務省矯正局長 37 年間の軌跡～(ShoPro Books)

名執 雅子 著
小学館集英社プロダクション

人はなぜ犯罪に至るのか？ 答えのない問いを突きつけられ、罪を犯した人に向き合う仕事「矯正」。男女格差の意識が残る昭和から現代にかけて、その仕事に真正面から立ち向かった法務省女性官僚の回顧録。

2021.11./ 271p
978-4-7968-7854-8

¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2022/01/29



神林先生の浅草案内<未完>

神林桂一 著
プレジデント社

都立浅草高等学校の国語科教員・神林先生が、浅草ランチ・ベスト 26、ひとり飲みのお店ランキングを紹介。浅草の深き食文化を、偏愛店を通して伝える。『dancyuWEB』連載を書籍化。

2021.11./ 199p
978-4-8334-5188-8

¥1,540〔税込〕



毎日新聞 2022/01/29



地中海と人間～原始・古代から現代まで～<1> 原始・古代から 14 世紀

デイヴィッド・アブラフィア 著
藤原書店

異なる文化的背景をもつ人々の交流と異文化接触の場としての地中海に焦点を当て、地中海の長大な歴史の変化とその変化をもたらした人々の活動を描く。1 は原始・古代?14 世紀を収録。カラー図版も多数収録。

2021.11./ 532p 図版
20p
978-4-86578-329-2

¥4,840〔税込〕



毎日新聞 2022/01/29



地中海と人間～原始・古代から現代まで～<2> 14 世紀から現代

デイヴィッド・アブラフィア 著
藤原書店

異なる文化的背景をもつ人々の交流と異文化接触の場としての地中海に焦点を当て、地中海の長大な歴史の変化とその変化をもたらした人々の活動を描く。2 は 14 世紀?現代を収録。著者の 2017 年来日講演も特別掲載。

2021.11./ p535?1030
図版 12p
978-4-86578-330-8

¥4,840〔税込〕



毎日新聞 2022/01/29